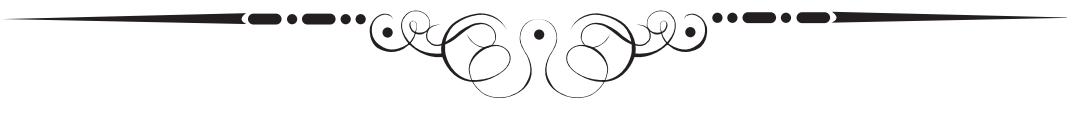


行田市民意識調査 報告書



平成 26 年 12 月

行 田 市

は じ め に



平成 26 年 12 月 行田市長 工藤正司

近年、市に対する市民の皆様のニーズは多様化し、また、取り組むべき課題も増加しております。このような中、市では第5次総合振興計画に掲げる将来像「古代から未来へ 夢をつなぐまち ゑょうだ」の実現に向け、行田ならではの各種施策を展開していますが、その基礎となるのが市民の皆様の意向や社会情勢の的確な把握・分析です。

市では今回、市政全般にわたる考えをお聴きするため、無作為に抽出した20歳以上の市民3,000人の方を対象に「市民意識調査」を実施いたしました。この調査の結果は、今後の市政運営に反映させていく他、各種施策の基礎資料として活用してまいります。

調査にご協力をいただいた方々に心から厚くお礼申し上げますとともに、「活力みなぎる元気な行田」を創出するため、全ての市民の皆様の市政に対するなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査対象及び調査方法.....	1
3 配布数及び回収結果.....	1

II 調 査 結 果

1 まちの暮らしやすさについて.....	1
(1) まちの住み心地.....	1
(2) 住みよい理由.....	2
(3) 住みにくい理由.....	2
(4) 今後の居住意向.....	3
2 市の生活環境や施設の満足度について.....	3
(1) 道路・交通の満足度.....	3
(2) 生活環境の満足度.....	4
(3) 教育・文化・コミュニティの満足度.....	5
(4) 保健・医療・福祉の満足度.....	6
3 今後のまちづくりについて.....	7
(1) 行政が特に力を入れてほしい施策.....	7
(2) 行田市の将来像.....	8
4 地域との関わりについて.....	8
(1) 地域活動への参加.....	8
(2) 参加したい地域活動.....	9
(3) ボランティア活動への参加状況.....	9
(4) 参加しているボランティア活動.....	10
(5) 参加したいが機会がない理由.....	10
(6) 福祉活動への関心.....	11
(7) 地域住民の支え合いの必要性.....	11
(8) 近隣との付き合い.....	12
5 少子・高齢化への対応について.....	12
(1) 少子化社会に対応するために重要なこと.....	12
(2) 高齢化社会に対応するために重要なこと.....	13
6 施設・都市機能について.....	13
(1) 施設や都市機能整備のありかた.....	13
(2) 市の環境	14
(3) 環境保全・改善のために強化すべき活動.....	15
(4) 市のごみ収集体制.....	15

(5) 収集回数を増やしたほうがよいごみ.....	16
(6) 収集回数を減らしたほうがよいごみ.....	16
7 健康について	17
(1) 自分が健康だと思うか.....	17
(2) どのくらい体を動かしているか.....	17
(3) 食育への取組.....	18
(4) 健康診断や検査の受診.....	18
(5) 定期的な歯科検診.....	21
8 景観について	22
(1) 魅力ある景観づくりに重要なこと.....	22
9 産業振興について.....	23
(1) 商業や産業の振興に重要なこと.....	23
10 公園の管理について.....	23
(1) 地域の公園の望ましい維持管理体制.....	23
11 市の情報について.....	24
(1) 詳しく知りたい市の情報.....	24
12 市内循環バスについて.....	24
(1) 市内循環バスの利用状況.....	24
(2) 市内循環バスの利用目的.....	25
(3) 電車乗り継ぎの利用目的.....	25
(4) 市内循環バスの今後の利用条件.....	26
13 国際交流について.....	26
(1) 望ましい国際交流の促進方法.....	26
14 市の教育方針について.....	27
(1) 力を入れるべき教育.....	27
15 防災体制について.....	27
(1) 防災体制として重要なこと.....	27
16 ものづくり大学について.....	28
(1) ものづくり大学施設の見学・利用状況.....	28
(2) ものづくり大学に期待すること.....	28
17 市民の通勤、買い物などの行き先について.....	29
(1) 市民の通勤・通学、買い物などの主な行き先.....	29
18 インターネットの利用について.....	30
(1) インターネットが利用できる環境.....	30
19 スポーツや運動について.....	31
(1) 運動やスポーツ活動の有無.....	31
(2) スポーツ活動の頻度.....	31
(3) この1年間に行った運動・スポーツ.....	32
(4) 運動する理由.....	33
(5) 運動を行う場所.....	34
(6) 運動・スポーツの取り組み方.....	35

(7) 運動しなかった理由.....	35
(8) 今後やってみたい運動.....	36
(9) 市のスポーツ施設の利用経験.....	37
(10) スポーツ施設の満足度.....	37
(11) 運動サークルなどへの加入状況.....	38
(12) 所属している運動サークルなど.....	38
(13) 市主催のスポーツイベントへの参加経験.....	39
(14) スポーツイベントに参加しなかった理由.....	39
(15) 参加したいスポーツイベント.....	40
(16) スポーツ振興のために必要な取組.....	41
(17) 充実すべきスポーツ種目.....	42
(18) 子どもの運動環境の充実に必要な取組.....	43
20 市政や市役所について.....	43
(1) 行政の信頼度.....	43
(2) 各施策の実行能力.....	44
(3) 市役所の利用しやすさ.....	44
(4) 窓口の対応.....	44
(5) 市民の声を反映しやすくするために必要なこと.....	45
(6) 市政への参加.....	45
(7) 今後の行政運営について望ましいと思う方向.....	46

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、まちづくりに取り組む上で、市民が市政に対してどのような意識をもっているか市政全般にわたる考えを広く聞き、その意向を行政に反映させることを目的に実施したものである。

2 調査対象及び調査方法

項 目	内 容
調査対象	市内在住の満 20 歳以上の方
標 本 数	3,000 人（無作為抽出）
調査方法	郵送による配布・回収（郵送法）
調査時期	平成 26 年 8 月
調査地域	市内全域

3 配布数及び回収結果

配 布 数	3,000
有効回収数	1,700
有効回収率	56.7%

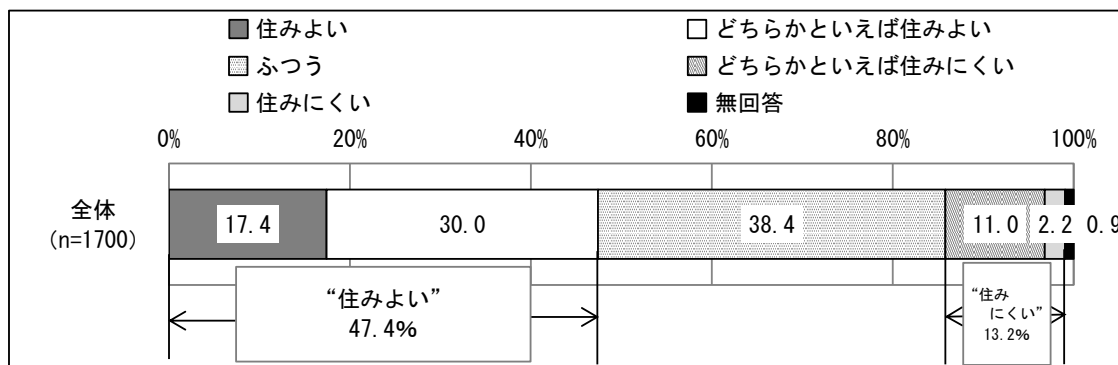
II 調 査 結 果

1 まちの暮らしやすさについて

（1）まちの住み心地

■ “住みよい” が 47.4%、「ふつう」が 38.4%、“住みにくい”は 13.2%。

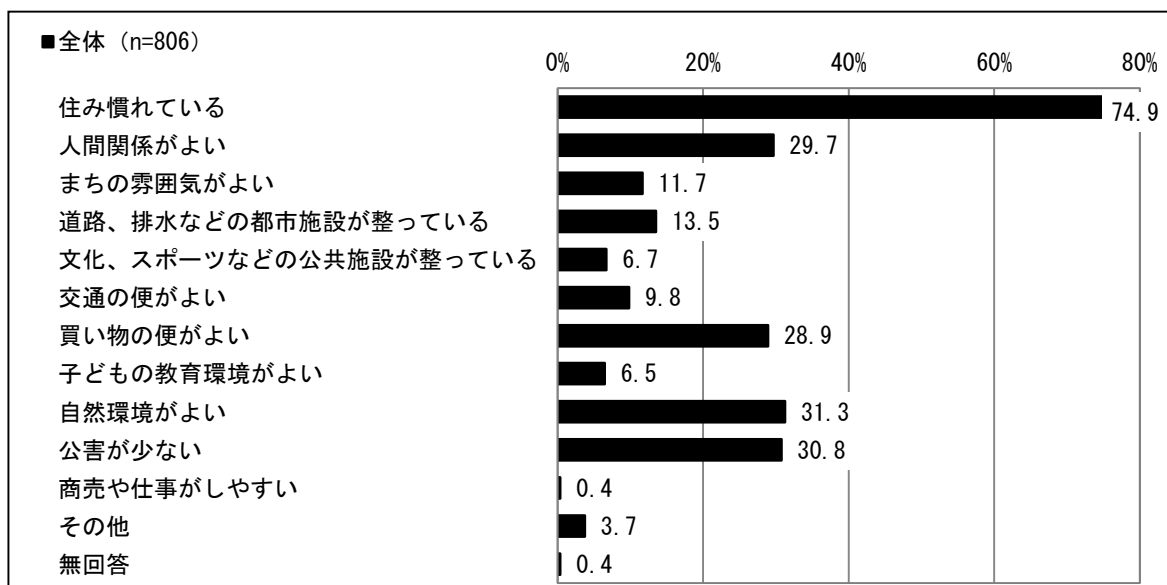
まちの住み心地については、「ふつう」が 38.4%で最も多い。次いで「どちらかといえば住みよい」が 30.0%で続き、これに「住みよい」（17.4%）を合わせた“住みよい”が 47.4%と半数弱を占める。一方、「どちらかといえば住みにくい」（11.0%）及び「住みにくい」（2.2%）を合わせた“住みにくい”は 13.2%となっており、“住みよい”が“住みにくい”の約 3.6 倍となっている。



(2) 住みよい理由

■住みよい理由は「住み慣れている」が第1位。次いで「自然環境がよい」、「公害が少ない」、「人間関係がよい」、「買い物の便がよい」の順。

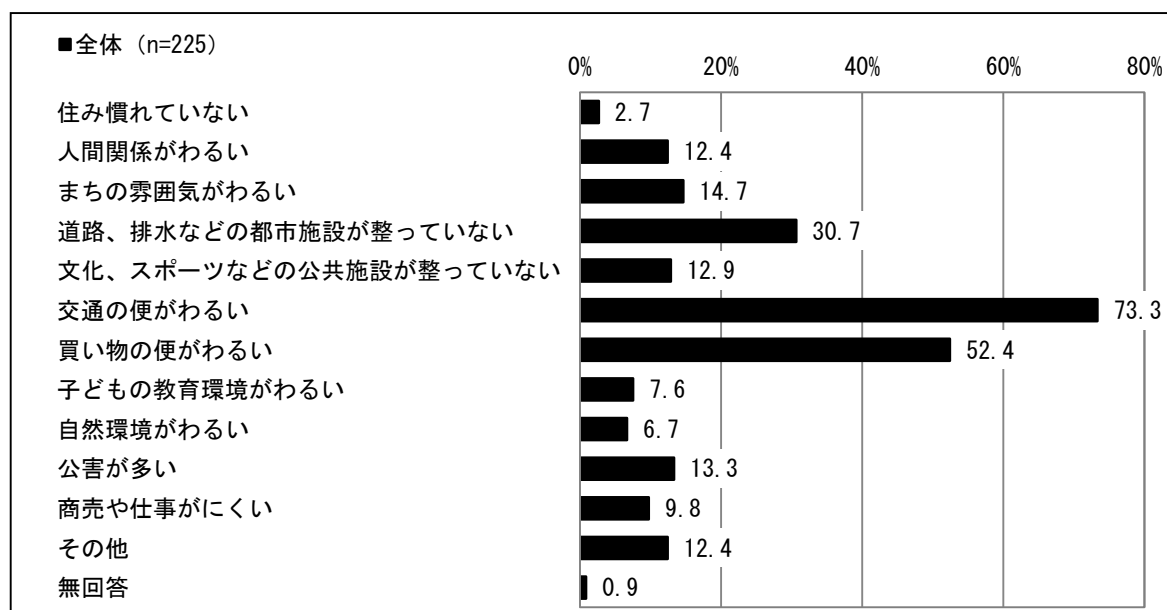
まちの住み心地で“住みよい”と回答した人(806人)にその理由を尋ねたところ、「住み慣れている」が74.9%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「自然環境がよい」(31.3%)、「公害が少ない」(30.8%)、「人間関係がよい」(29.7%)、「買い物の便がよい」(28.9%)などの順となっている。



(3) 住みにくい理由

■住みにくい理由は「交通の便がわるい」が第1位。次いで「買い物の便がわるい」、「道路、排水などの都市施設が整っていない」の順。

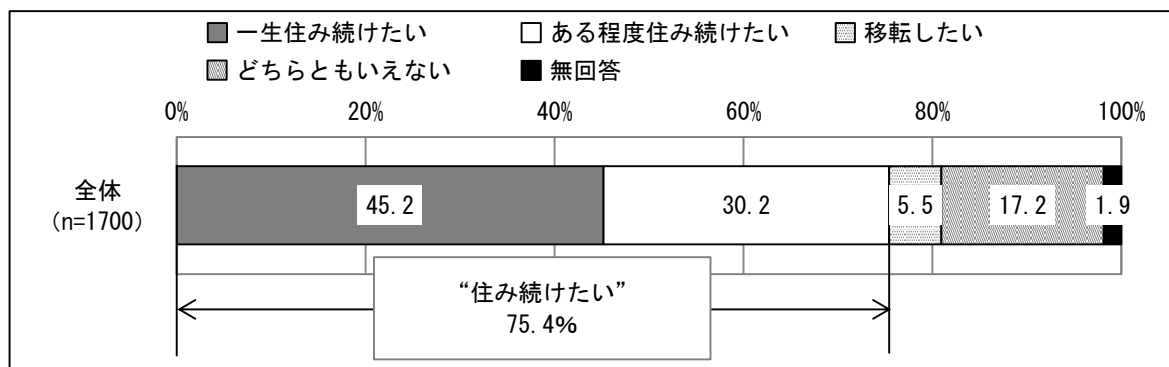
まちの住み心地で“住みにくい”と回答した人(225人)にその理由を尋ねたところ、「交通の便がわるい」が73.3%で第1位に挙げられ、次いで「買い物の便がわるい」(52.4%)、「道路、排水などの都市施設が整っていない」(30.7%)などの順となっている。



(4) 今後の居住意向

■ “住み続けたい” が 75.4%と 7 割を超え、“移転したい” は 5.5%。

今後の居住意向は、「一生住み続けたい」が 45.2%で最も多く、これに「ある程度住み続けたい」(30.2%)を合わせた“住み続けたい”が 75.4%と 7 割を超える。一方、「移転したい」は 5.5%にとどまる。なお、「どちらともいえない」は 17.2%であった。

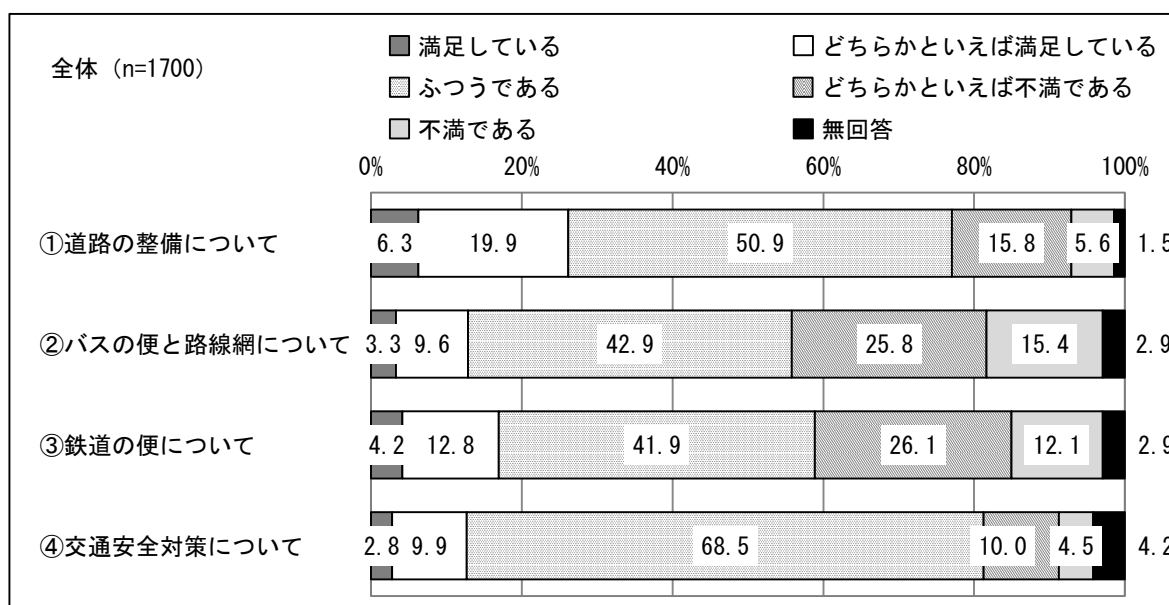


2 市の生活環境や施設の満足度について

(1) 道路・交通の満足度

■ “不満” は『②バスの便と路線網について』『③鉄道の便について』で多い。

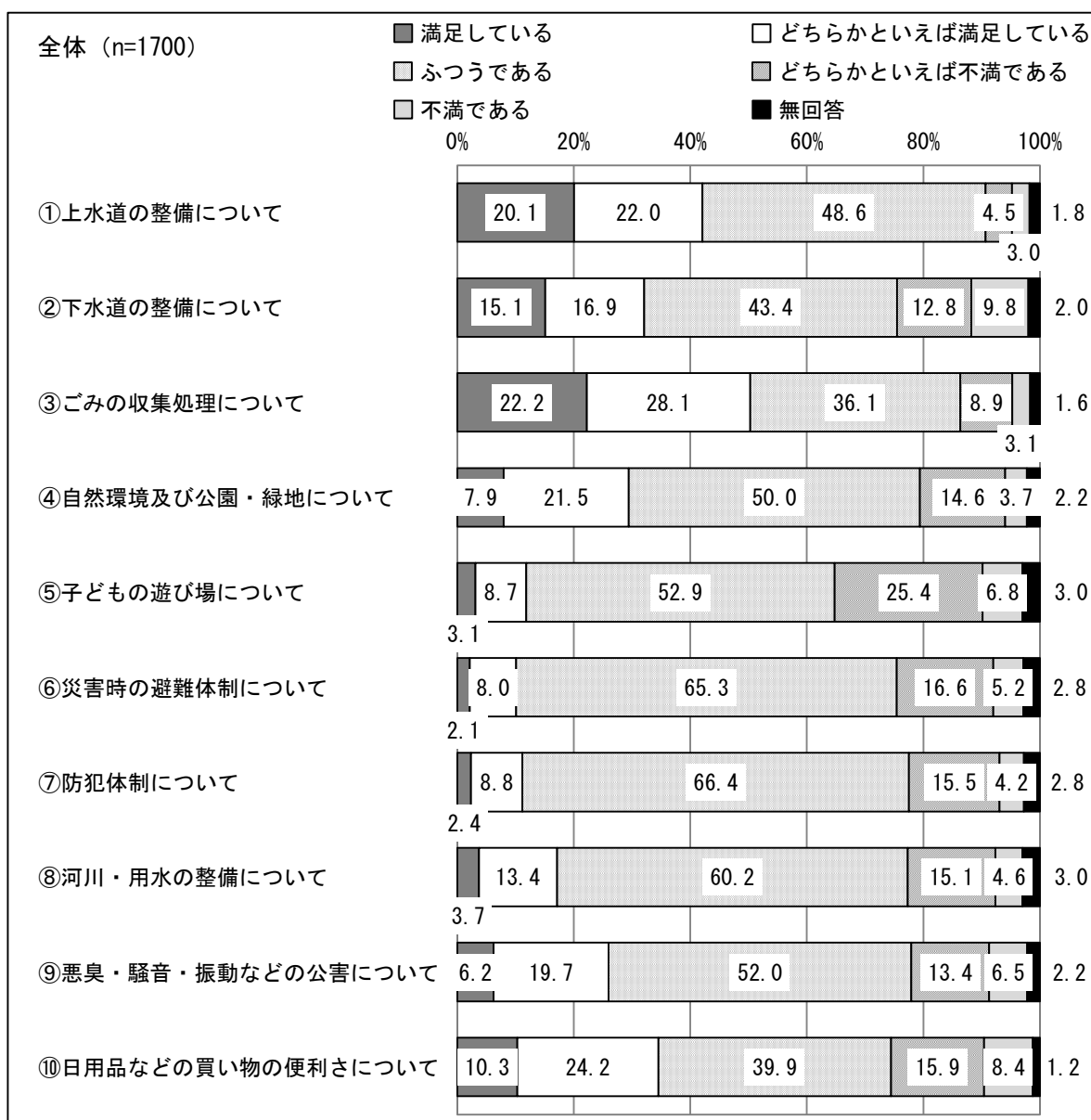
道路・交通の満足度について尋ねたところ、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『①道路の整備について』（26.2%）で最も多く、次いで『③鉄道の便について』（17.0%）が続く。一方、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）は『②バスの便と路線網について』（41.2%）で最も多く、次いで『③鉄道の便について』（38.2%）が続く。



(2) 生活環境の満足度

■ “不満”は『⑤子どもの遊び場について』で最も多い。

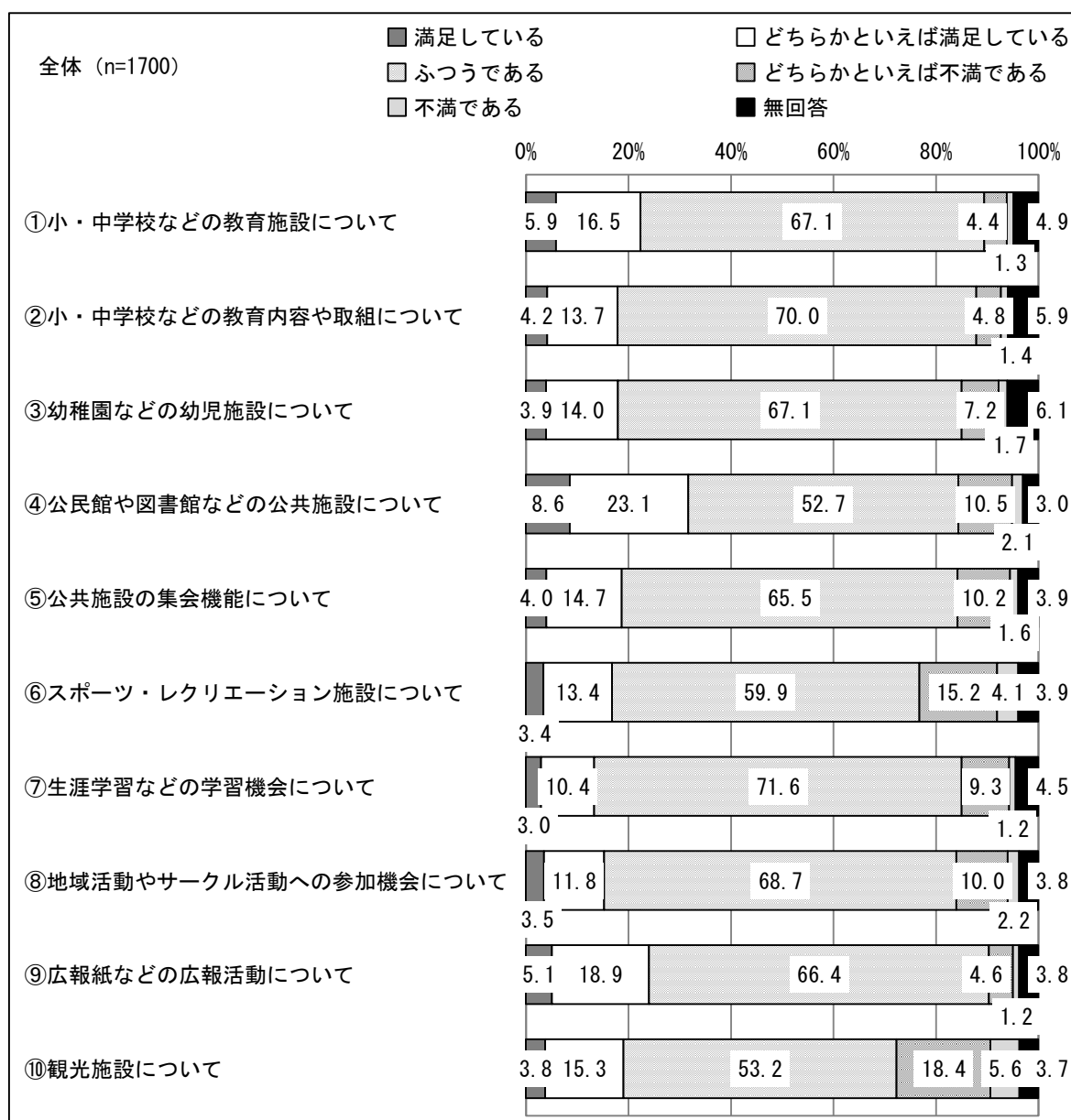
生活環境の満足度について尋ねたところ、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『⑤ごみの収集処理について』（50.3%）で最も多く、次いで『①上水道の整備について』（42.1%）が続いている。なお、この2項目については、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）が1割前後となっており、比較的良好な評価を得ているといえる。また、『⑩日用品などの買い物の便利さについて』『②下水道の整備について』『④自然環境及び公園・緑地について』『⑨悪臭・騒音・振動などの公害について』については“満足”が約3割みられるものの、“不満”も2割前後あり、評価が分かれている。さらに、『⑥災害時の避難体制について』『⑦防犯体制について』『⑧河川・用水の整備について』の3項目については、“不満”が2割前後となっている。一方、“不満”が最も多い項目は、『⑤子どもの遊び場について』（32.2%）となっている。



(3) 教育・文化・コミュニティの満足度

■ “不満”は『⑩観光施設について』で最も多く、次いで『⑥スポーツ・レクリエーション施設』が続く。

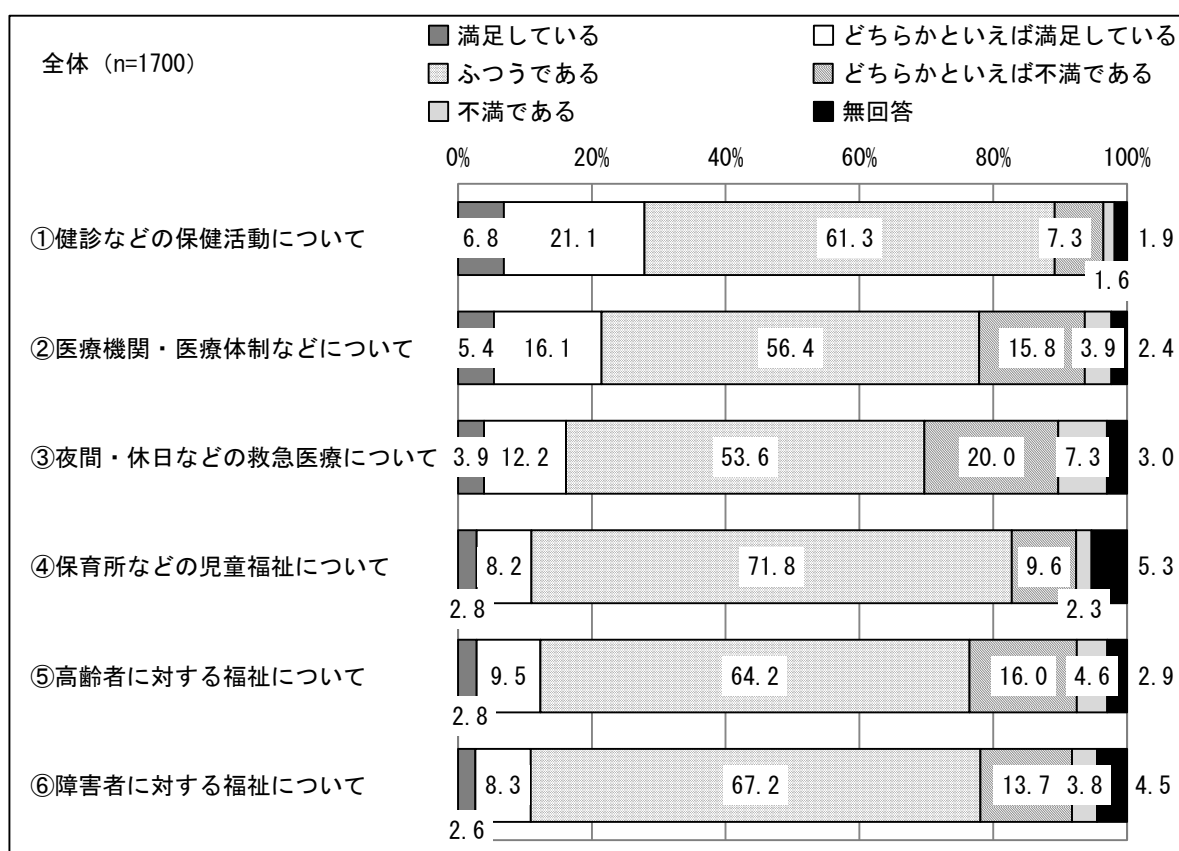
教育・文化・コミュニティの満足度について尋ねたところ、すべての項目で「ふつうである」が多数を占めている。また、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『④公民館や図書館などの公共施設について』（31.7%）で最も多い。一方、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）は『⑩観光施設について』（24.0%）で最も多く、次いで『⑥スポーツ・レクリエーション施設について』（19.3%）が続く。



(4) 保健・医療・福祉の満足度

■ “不満”は『③夜間・休日などの救急医療について』が最も多く、次いで『⑤高齢者に対する福祉について』が続く。

保健・医療・福祉の満足度について尋ねたところ、すべての項目で「ふつうである」が多数を占めている。また、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『①健診などの保健活動について』で最も多い。一方、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）は、『③夜間・休日などの救急医療について』（27.3%）で最も多く、次いで『⑤高齢者に対する福祉について』（20.6%）、『②医療機関・医療体制などについて』（19.7%）が続く。

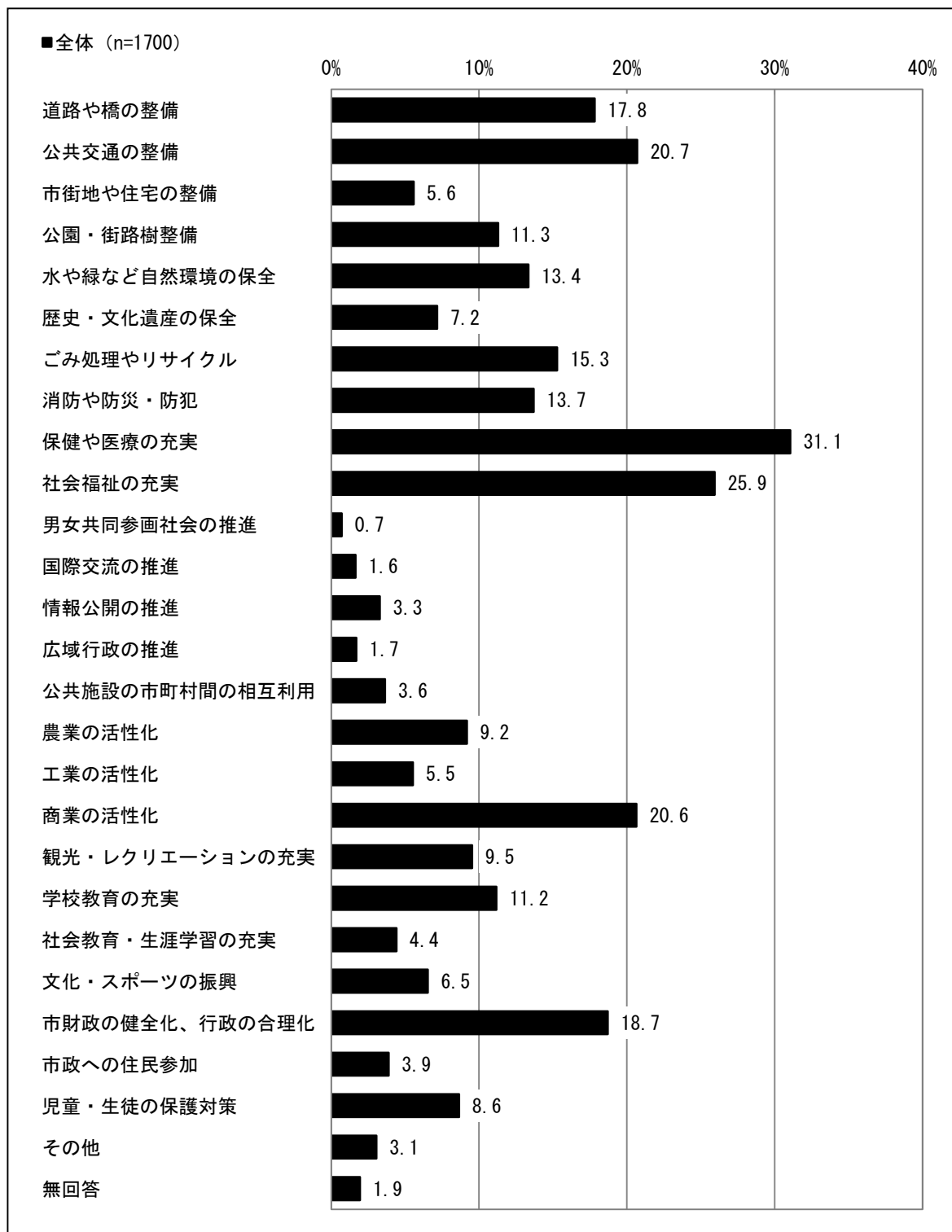


3 今後のまちづくりについて

(1) 行政が特に力を入れてほしい施策

■「保健や医療の充実」が第1位。次いで「社会福祉の充実」、「公共交通の整備」、「商業の活性化」などの順。

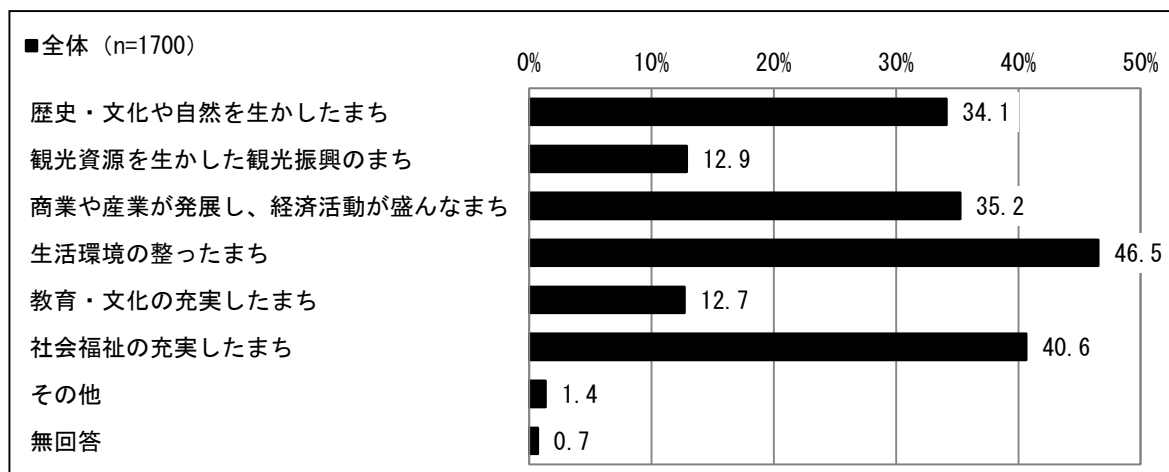
行政が特に力を入れてほしい施策は、「保健や医療の充実」(31.1%)が第1位に挙げられ、次いで「社会福祉の充実」(25.9%)、「公共交通の整備」(20.7%)、「商業の活性化」(20.6%)、「市財政の健全化、行政の合理化」(18.7%)などの順となっている。



(2) 行田市の将来像

■「生活環境の整ったまち」が第1位。次いで「社会福祉の充実」の順。

行田市の将来像については、「生活環境の整ったまち」(46.5%)が第1位に挙げられ、次いで「社会福祉の充実したまち」(40.6%)、「商業や産業が発展し、経済活動が盛んなまち」(35.2%)、「歴史・文化や自然を生かしたまち」(34.1%)などの順となっている。

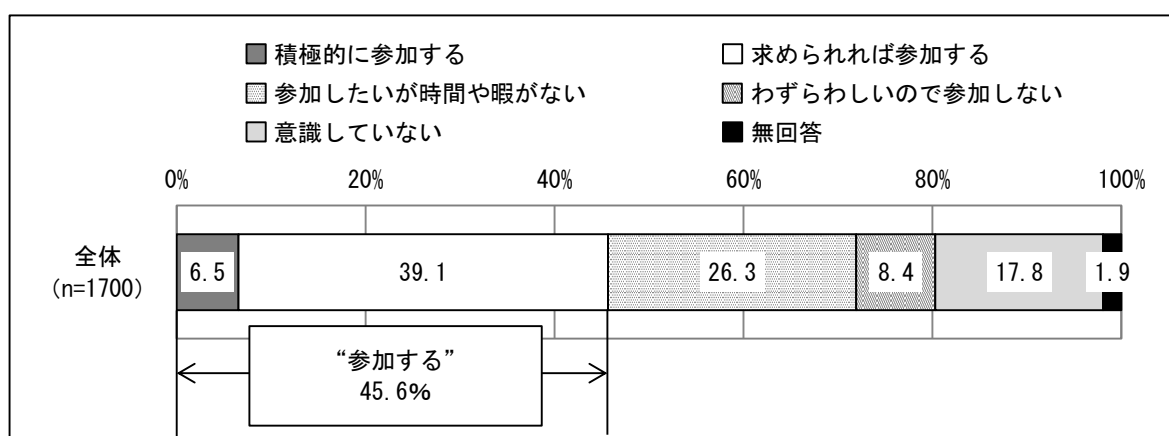


4 地域との関わりについて

(1) 地域活動への参加

■「求められれば参加する」が39.1%で約4割を占め、「参加する」が45.6%。

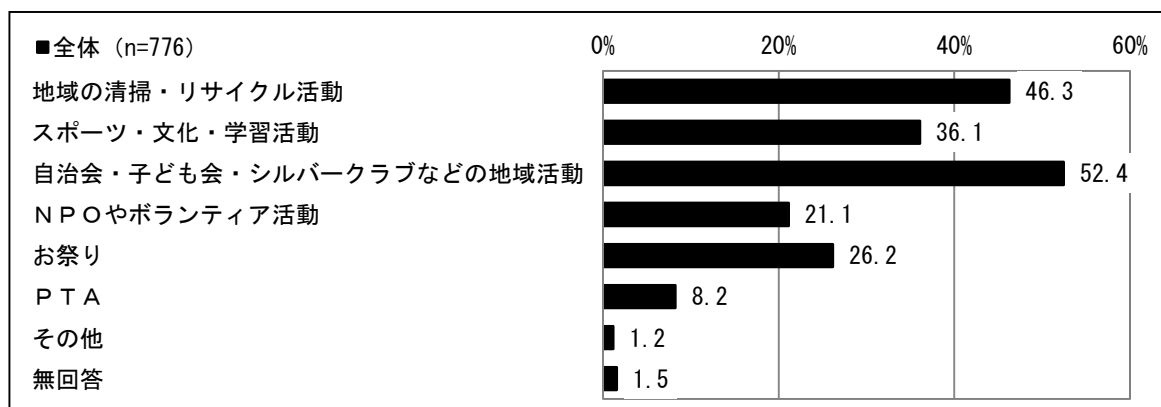
地域活動への参加意向は、「求められれば参加する」が39.1%で約4割を占め、これに「積極的に参加する」(6.5%)を合わせた“参加する”が45.6%となっている。また、「参加したいが時間や暇がない」は26.3%、「意識していない」は17.8%、「わずらわしいので参加しない」は8.4%となっている。



(2) 参加したい地域活動

■「自治会・子ども会・シルバークラブなどの地域活動」が第1位。次いで「地域の清掃・リサイクル活動」、「スポーツ・文化・学習活動」の順。

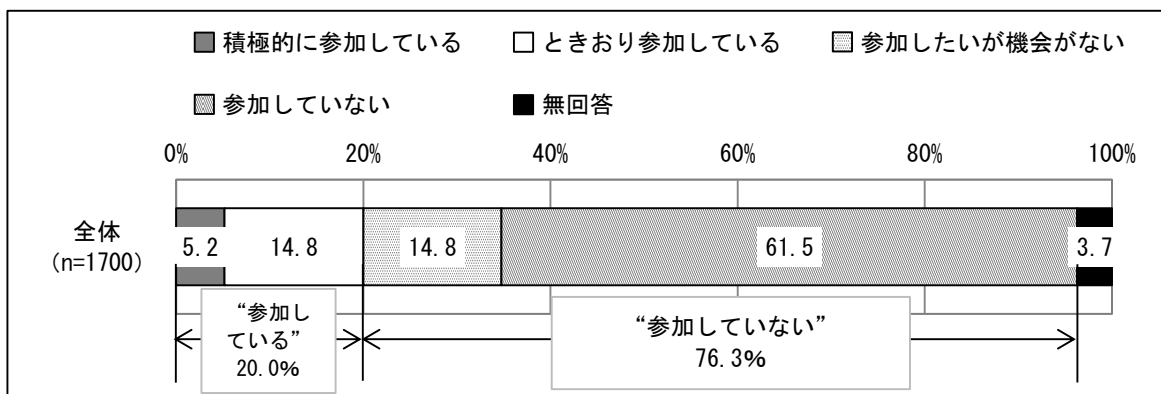
地域活動に“参加する”と回答した人（776 人）に、参加したい地域活動を尋ねたところ、「自治会・子ども会・シルバークラブなどの地域活動」（52.4%）が第1位に挙げられ、次いで「地域の清掃・リサイクル活動」（46.3%）、「スポーツ・文化・学習活動」（36.1%）などの順となっている。



(3) ボランティア活動への参加状況

■“参加していない”が76.3%。一方、“参加している”は20.0%。

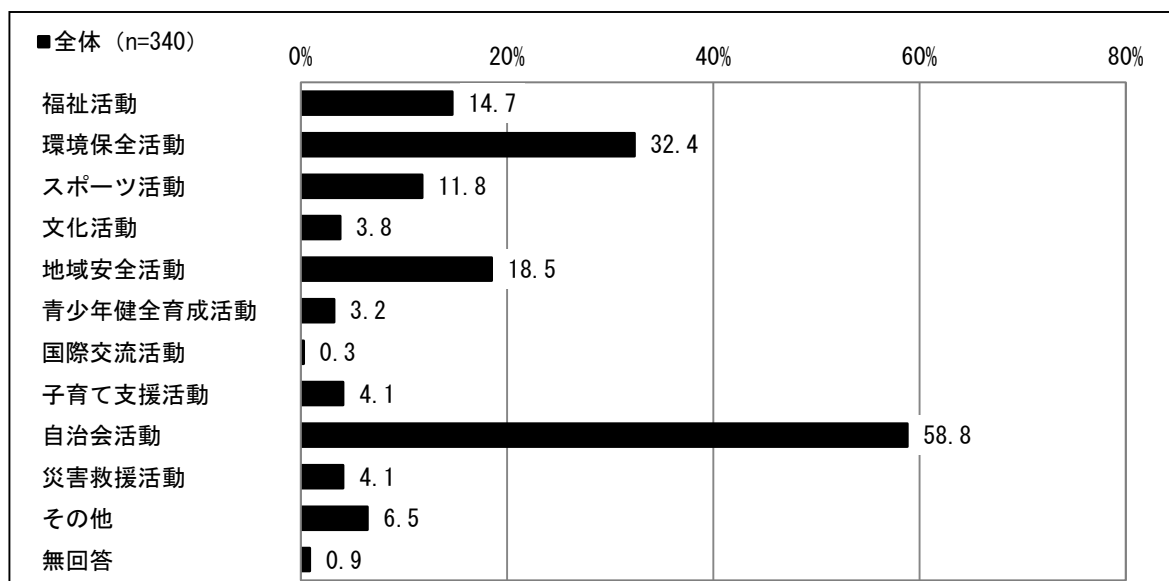
ボランティア活動への参加状況を見ると、「参加していない」が61.5%で最も多く、これに「参加したいが機会がない」（14.8%）を合わせた“参加していない”が76.3%となっている。一方、「積極的に参加している」（5.2%）と「ときおり参加している」（14.8%）を合わせた“参加している”は20.0%となっている。



(4) 参加しているボランティア活動

■「自治会活動」が第1位。次いで「環境保全活動」、「地域安全活動」などの順。

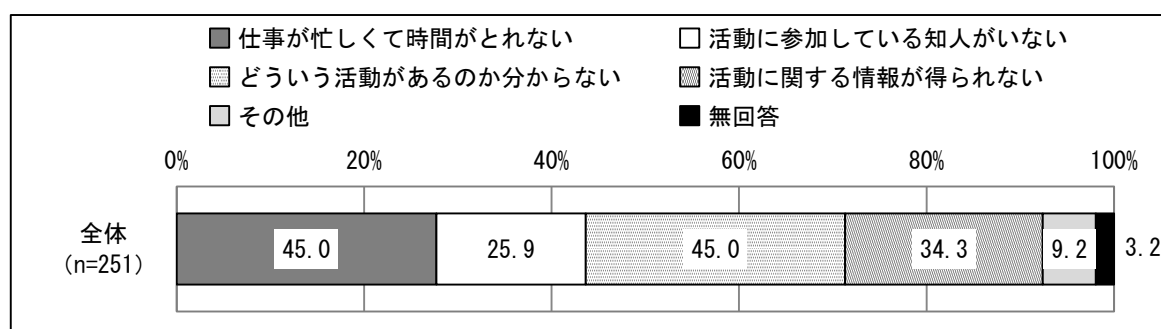
ボランティア活動に“参加している”と回答した人（340人）に参加しているボランティア活動を尋ねたところ、「自治会活動」（58.8%）が第1位に挙げられ、次いで「環境保全活動」（32.4%）、「地域安全活動」（18.5%）、「福祉活動」（14.7%）などの順となっている。



(5) 参加したいが機会がない理由

■「仕事が忙しくて時間がとれない」及び「どういう活動があるのか分からない」が主な理由。

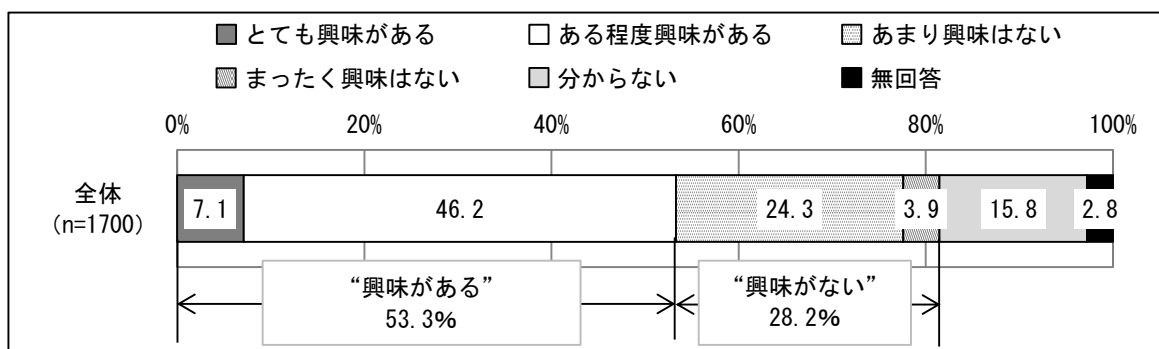
「参加したいが機会がない」と回答した人（251人）に、その理由を尋ねたところ、「仕事が忙しくて時間がとれない」及び「どういう活動があるのか分からない」が45.0%（同率）で最も多く、次いで「活動に関する情報が得られない」（34.3%）、「活動に参加している知人がいない」（25.9%）となっている。



(6) 福祉活動への関心

■ “興味がある” が 53.3%。一方、“興味がない” が 28.2%。

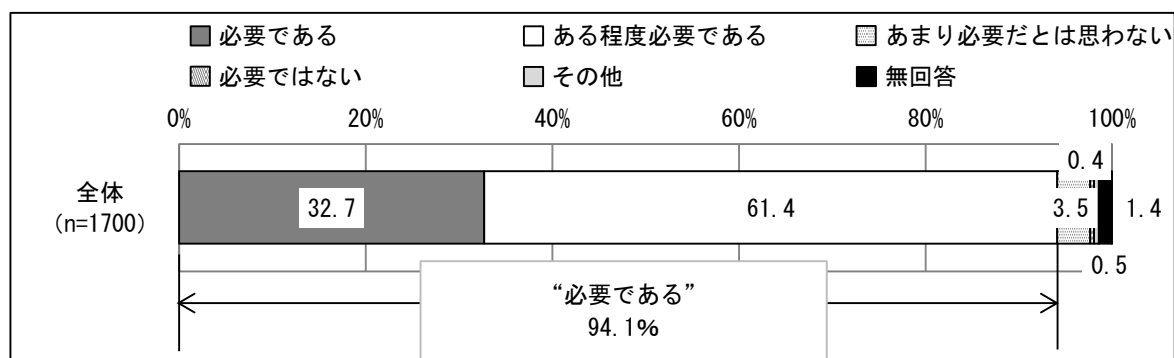
福祉活動への関心をみると、「ある程度興味がある」が 46.2%で最も多く、これに「とても興味がある」(7.1%)を合わせた“興味がある”が 53.3%と半数を超えている。一方、“興味がない”（「あまり興味はない」(24.3%)及び「まったく興味はない」(3.9%)の合計）は 28.2%となっており、「分からない」は 15.8%であった。



(7) 地域住民の支え合いの必要性

■ “必要である” が 94.1%と 9 割を超える。

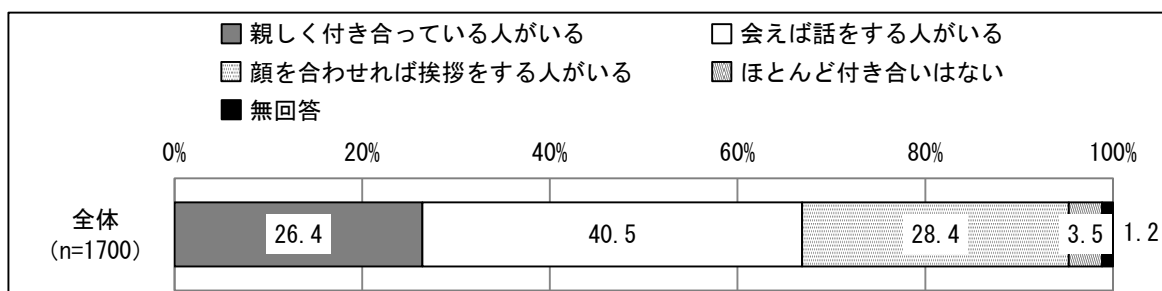
地域住民の支え合いの必要性については、「ある程度必要である」が 61.4%で最も多く、これに「必要である」(32.7%)を合わせた“必要である”が 94.1%と 9 割を超える。一方、“必要でない”（「必要ではない」3.5%及び「あまり必要だとは思わない」0.4%の合計）はわずか 3.9%にとどまる。



(8) 近隣との付き合い

■「会えば話をする人」が40.5%で最も多い。

近隣との付き合いについては、「会えば話をする人がいる」が40.5%で最も多く、次いで「顔を合わせれば挨拶をする人がいる」が28.4%、「親しく付き合っている人がいる」が26.4%となっている。なお、「ほとんど付き合いはない」は3.5%にとどまる。

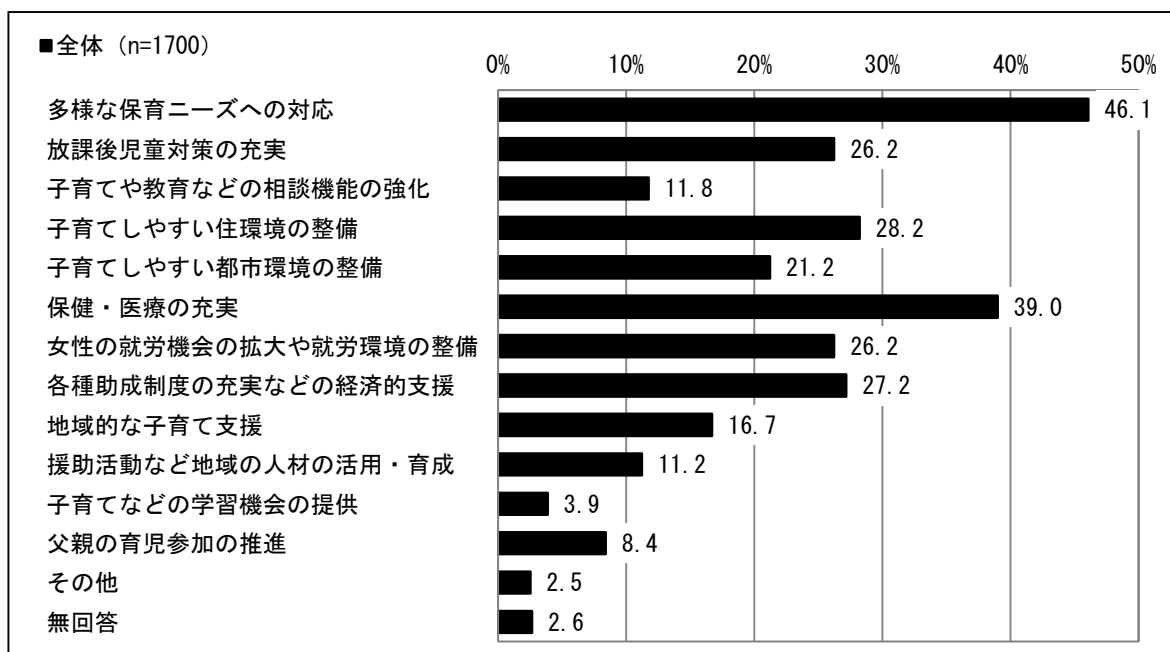


5 少子・高齢化への対応について

(1) 少子化社会に対応するために重要なこと

■「多様な保育ニーズへの対応」が第1位。次いで「保健・医療の充実」が続く。

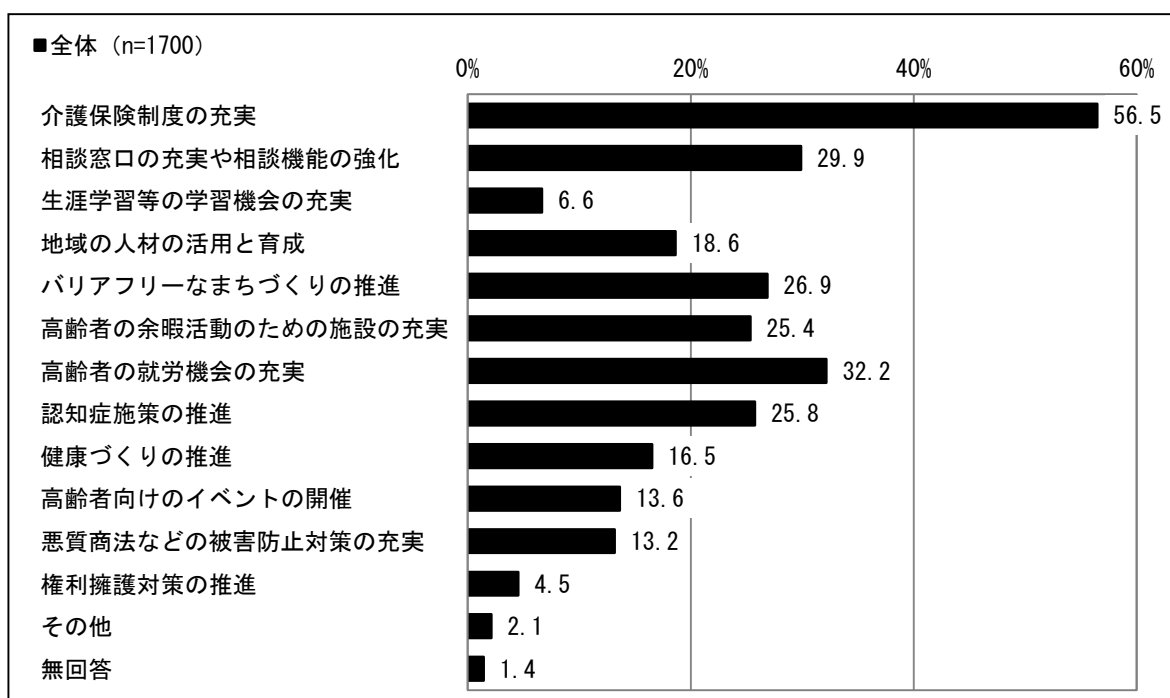
少子化社会に対応するために重要なことは、「多様な保育ニーズへの対応」(46.1%)が第1位に挙げられ、次いで「保健・医療の充実」(39.0%)、「子育てしやすい住環境の整備」(28.2%)、「各種助成制度の充実などの経済的支援」(27.2%)などの順となっている。



（２）高齢化社会に対応するために重要なこと

■「介護保険制度の充実」が第１位。次いで「高齢者の就労機会の充実」、「相談窓口の充実や相談機能の強化」の順。

高齢化社会に対応するために重要なことは、「介護保険制度の充実」（56.5%）が第１位に挙げられ、次いで「高齢者の就労機会の充実」（32.2%）、「相談窓口の充実や相談機能の強化」（29.9%）などの順となっている。

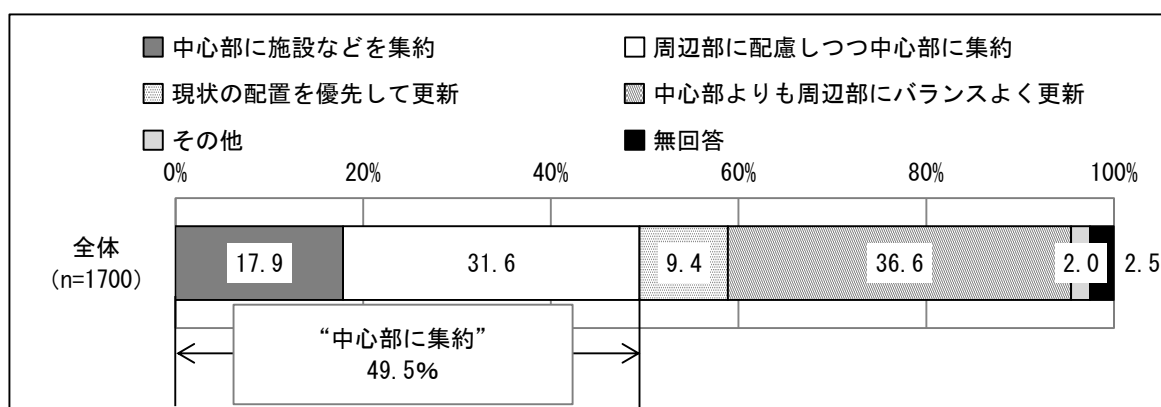


6 施設・都市機能について

（１）施設や都市機能整備のありかた

■“中心部に集約”が49.5%と約半数を占める。

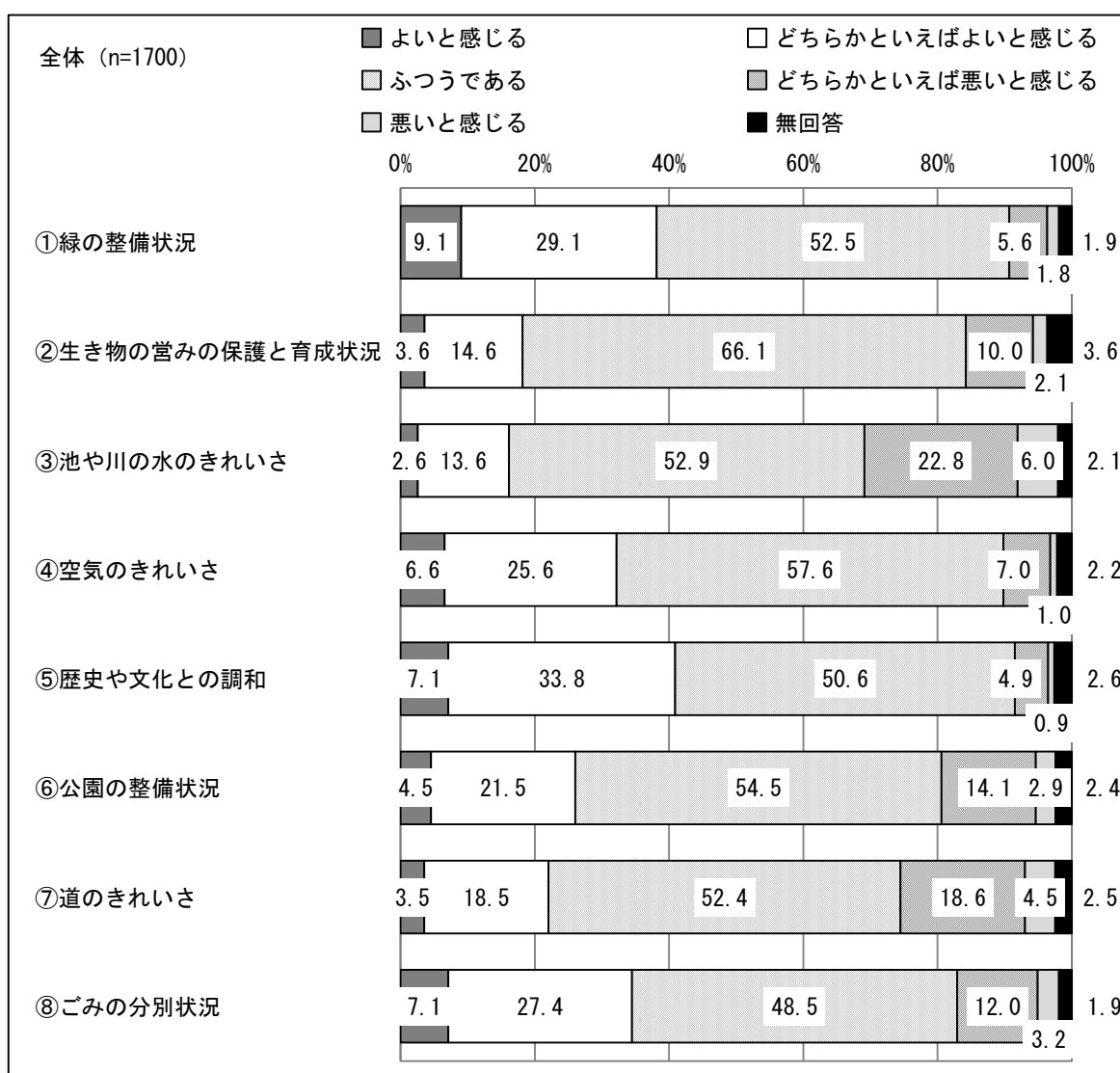
施設や都市機能整備のありかたについては、「中心部に施設などを集約」（17.9%）と「周辺部に配慮しつつ中心部に集約」（31.6%）を合わせた“中心部に集約”と回答した人が49.5%とほぼ半数を占め、「中心部よりも周辺部にバランスよく更新」が36.6%、「現状の配置を優先して更新」が9.4%となっている。



(2) 市の環境

■ “よい”と回答した割合は『⑤歴史や文化との調和』『①緑の整備状況』で多く、一方“悪い”は『③池や川の水のきれいさ』『⑦道のきれいさ』で多い。

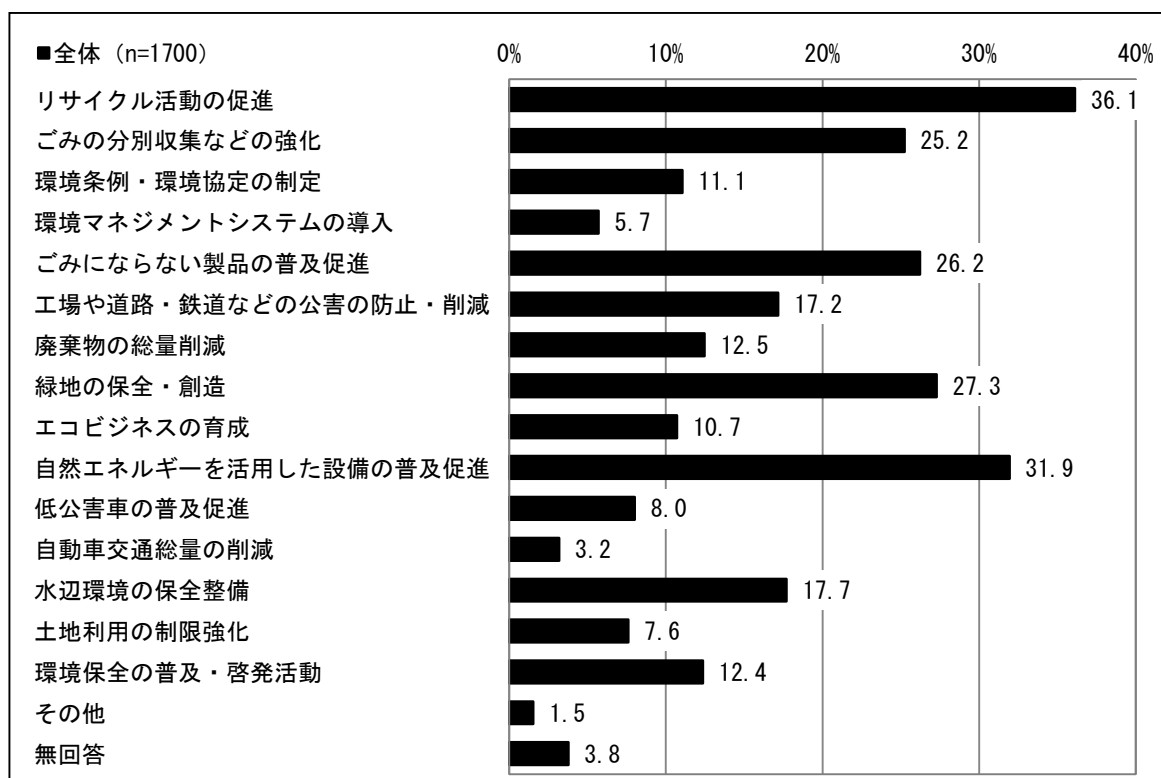
市の環境について、8つの項目を設定して尋ねたところ、“よい”（「よいと感じる」及び「どちらかといえばよいと感じる」の合計）が最も多い項目は『⑤歴史や文化との調和』（40.9%）となっており、次いで『①緑の整備状況』（38.2%）が続く。一方、“悪い”（「どちらかといえば悪いと感じる」及び「悪いと感じる」の合計）は『③池や川の水のきれいさ』（28.8%）で最も多く、次いで『⑦道のきれいさ』（23.1%）が続く。



(3) 環境保全・改善のために強化すべき活動

■「リサイクル活動の促進」が第1位。次いで「自然エネルギーを活用した設備の普及促進」が続く。

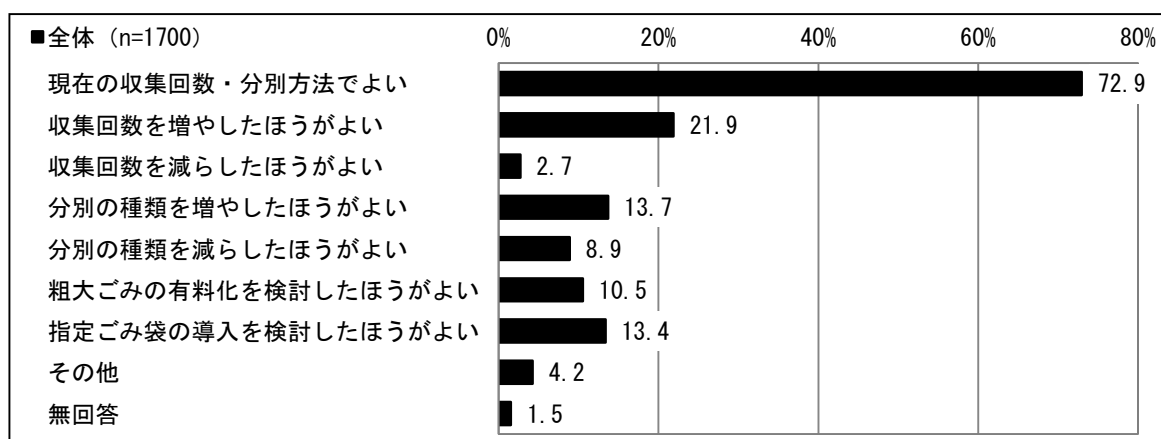
環境保全・改善のために強化すべき活動は、「リサイクル活動の促進」(36.1%)が第1位に挙げられ、次いで「自然エネルギーを活用した設備の普及促進」(31.9%)、「緑地の保全・創造」(27.3%)、「ごみにならない製品の普及促進」(26.2%)などの順となっている。



(4) 市のごみ収集体制

■「現在の収集回数・分別方法でよい」が他を大きく引き離して第1位。

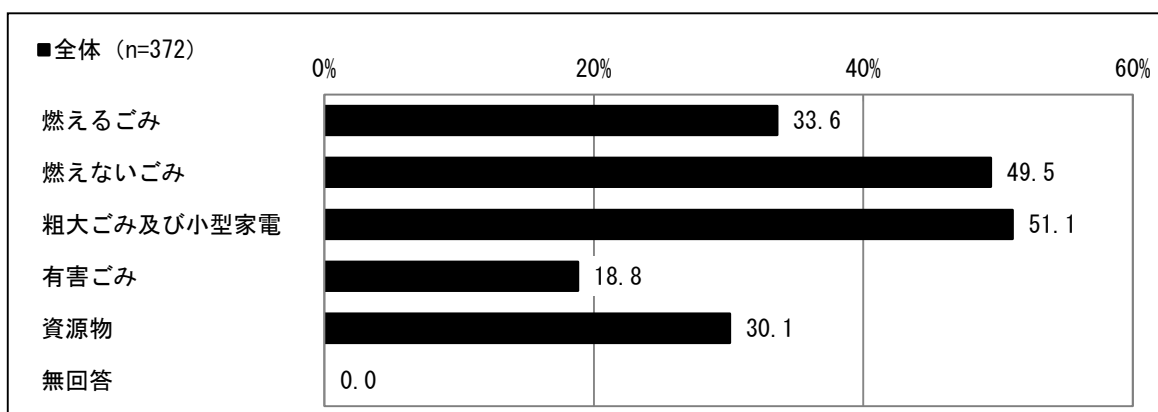
ごみの収集回数については、「現在の収集回数・分別方法でよい」(72.9%)が他を大きく引き離して第1位となっており、多数の人が現状維持を望んでいることがうかがえる。次いで「収集回数を増やしたほうがよい」(21.9%)が続く。



（５）収集回数を増やしたほうがよいごみ

■収集回数を増やしたほうがよいごみは、「粗大ごみ及び小型家電」及び「燃えないごみ」。

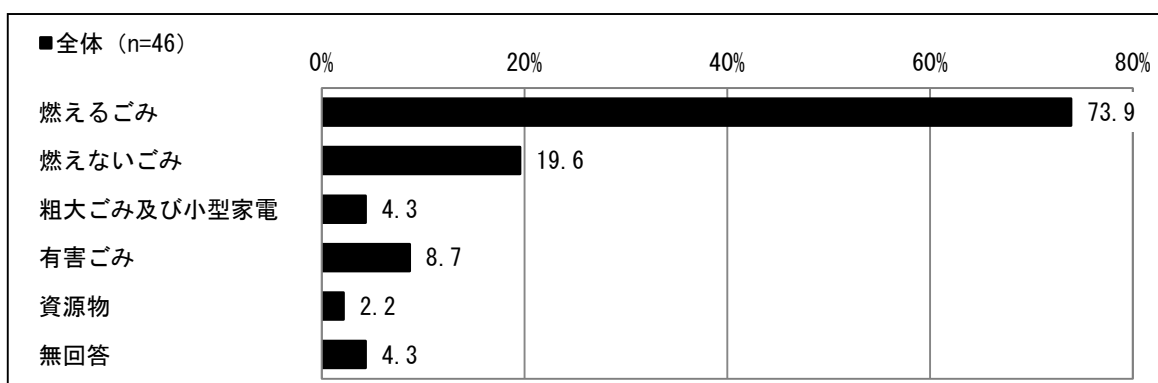
ごみ収集回数を増やしたほうがよいと回答した人（372 人）にその種類を尋ねたところ、「粗大ごみ及び小型家電」（51.1％）及び「燃えないごみ」（49.5％）が上位に挙げられている。



（６）収集回数を減らしたほうがよいごみ

■収集回数を減らしたほうがよいごみは「燃えるごみ」。

ごみ収集回数を減らしたほうがよいと回答した人（46 人）にその種類を尋ねたところ、「燃えるごみ」（73.9％）が他を大きく引き離して第 1 位に挙げられている。

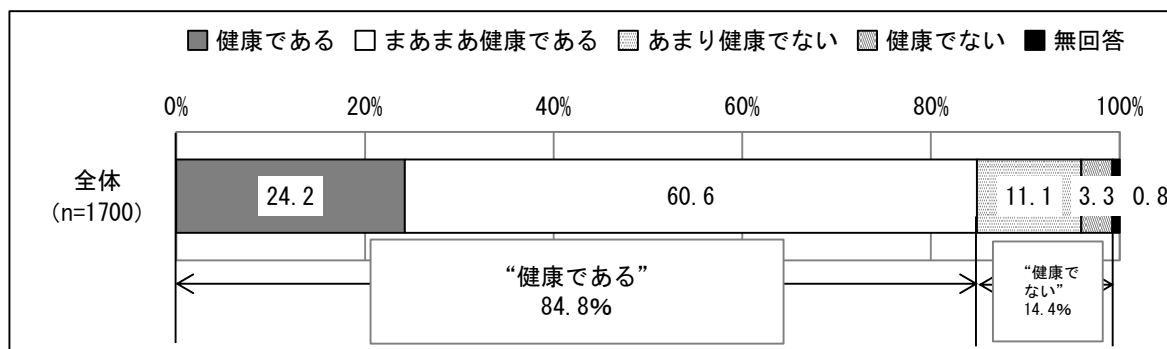


7 健康について

(1) 自分が健康だと思うか

■ “健康である” は 84.8%。一方、“健康でない” は 14.4%。

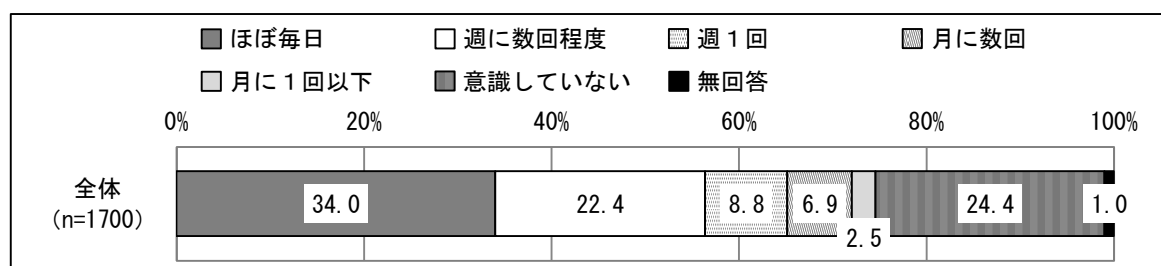
自分の健康については、「まあまあ健康である」が 60.6%で最も多く、これに「健康である」(24.2%)を合わせた“健康である”が 84.8%と 8 割を超える。一方、“健康でない”（「健康でない」及び「あまり健康でない」の合計）は 14.4%となっている。



(2) どのくらい体を動かしているか

■ 「ほぼ毎日」が 34.0%で最も多く、体を動かすことを意識している人は 7 割以上となっている。

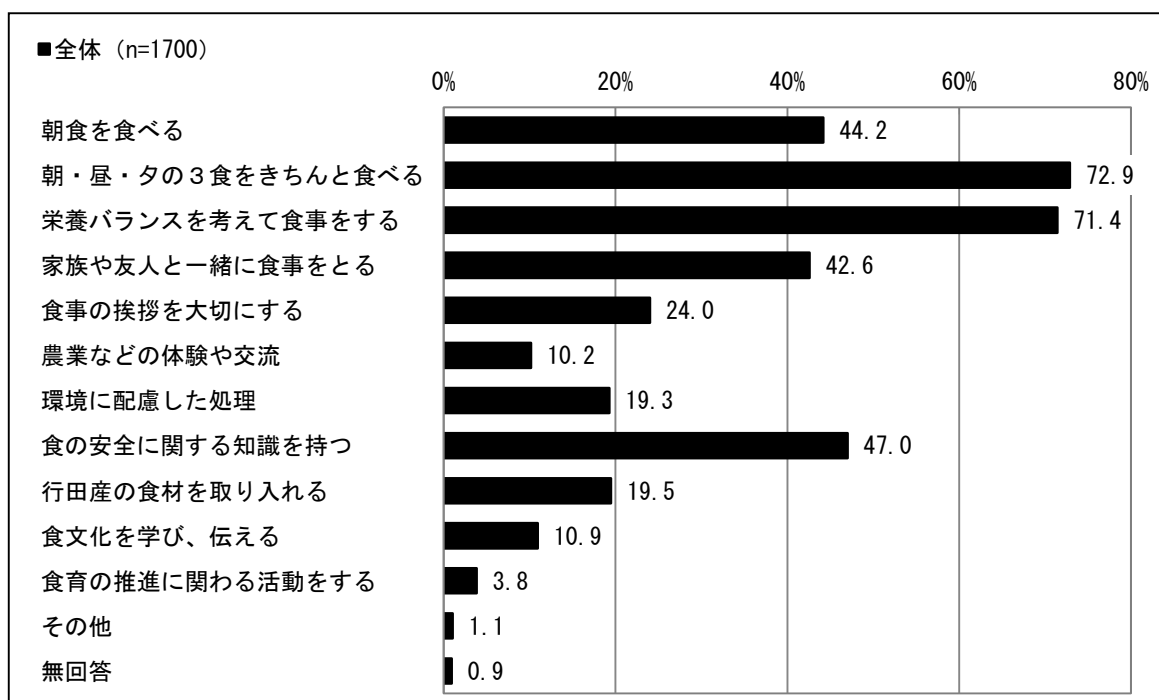
どのくらい体を動かしているかについては、「ほぼ毎日」が 34.0%で最も多く、「週に数回程度」が 22.4%、「週 1 回」が 8.8%、「月に数回」が 6.9%、「月に 1 回以下」が 2.5%となっており、これらを合わせた体を動かすことを意識している人は 74.5%と 7 割を超える。一方、「意識していない」は 24.4%であった。



(3) 食育への取組

■「朝・昼・夕の3食をきちんと食べる」及び「栄養バランスを考えて食事をする」が上位を占める。

食育への取組については、「朝・昼・夕の3食をきちんと食べる」(72.9%)及び「栄養バランスを考えて食事をする」(71.4%)が7割を超え、他を大きく引き離して上位を占める。次いで「食の安全に関する知識を持つ」(47.0%)、「朝食を食べる」(44.2%)、「家族や友人と一緒に食事をとる」(42.6%)などの順となっている。

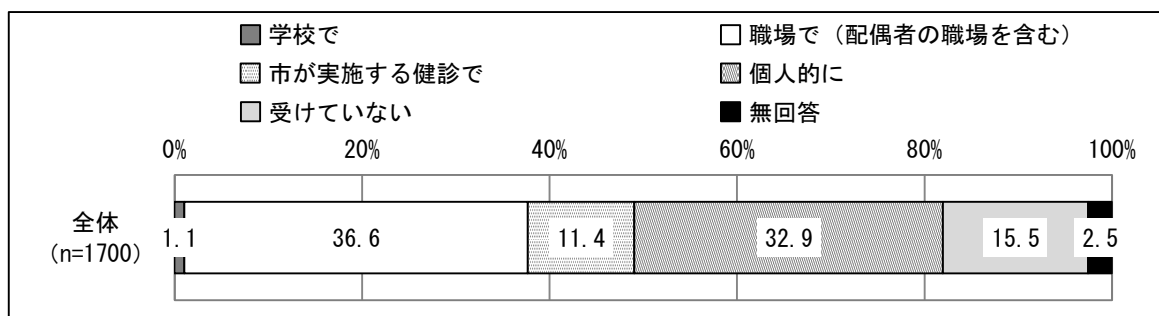


(4) 健康診断や検査の受診

① 血圧、血液検査などの健康診査

■「職場で（配偶者の職場を含む）」が36.6%で最も多く、次いで「個人的に」が32.9%で続き、受診した人は合わせて8割を超える。一方、「受けていない」は15.5%。

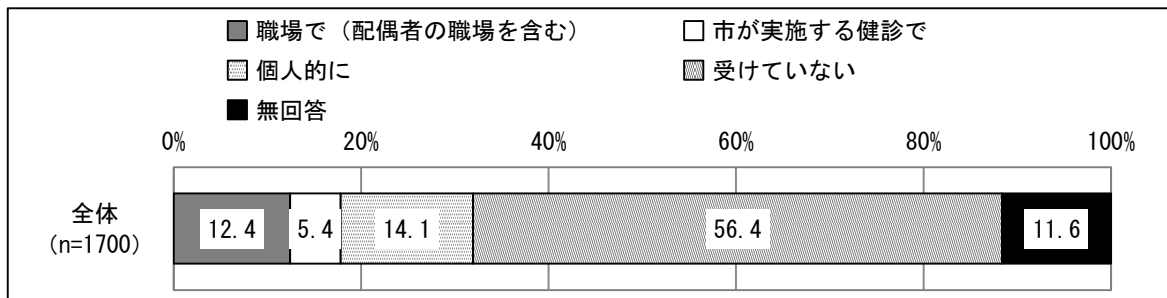
血圧、血液検査などの健康診査については、「職場で（配偶者の職場を含む）」が36.6%で最も多く、次いで「個人的に」(32.9%)、「市が実施する健診で」(11.4%)、「学校で」(1.1%)となっており、これらを合わせた受診した人は82.0%となっている。なお、「受けていない」は15.5%であった。



②胃がん検診

■「受けていない」が56.4%。一方、受診した人は31.9%。

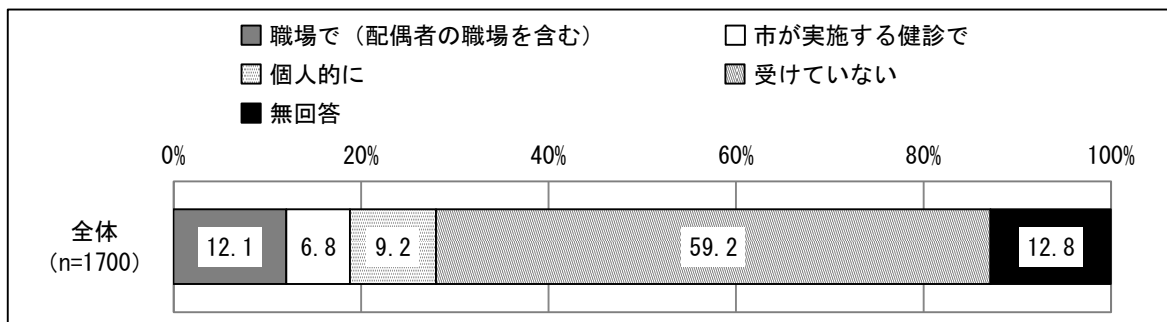
胃がん検診については、「受けていない」が56.4%と半数以上を占め、「個人的に」が14.1%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が12.4%、「市が実施する健診で」が5.4%となっており、受診した人は合わせて31.9%であった。



③肺がん検診

■「受けていない」が59.2%。一方、受診した人は28.1%。

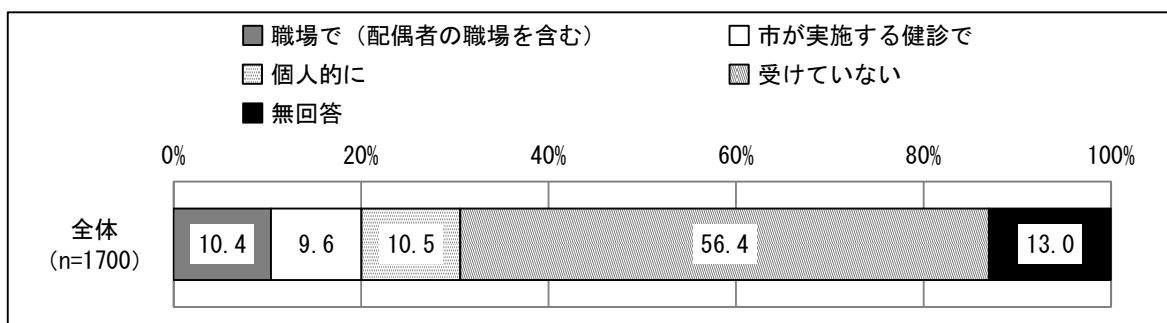
肺がん検診については、「受けていない」が59.2%と約6割を占め、「職場で（配偶者の職場を含む）」が12.1%、「個人的に」が9.2%、「市が実施する健診で」が6.8%となっており、受診した人は合わせて28.1%であった。



④大腸がん検診

■「受けていない」が56.4%。一方、受診した人は30.5%。

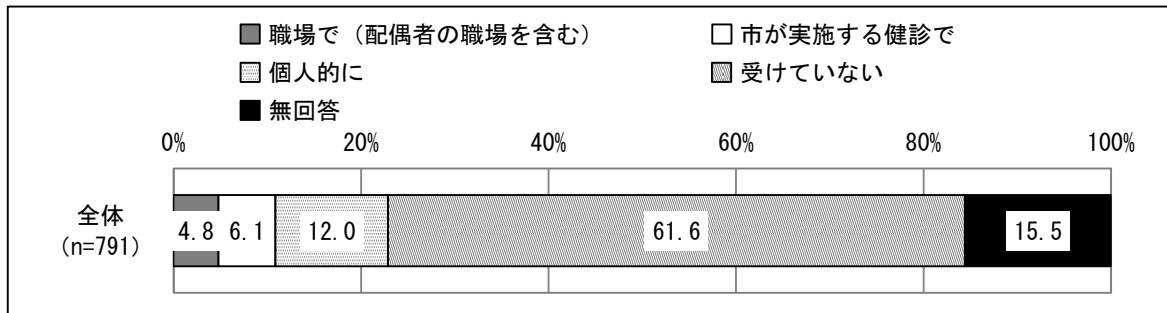
大腸がん検診については、「受けていない」が56.4%で半数以上を占め、「個人的に」が10.5%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が10.4%、「市が実施する健診で」が9.6%となっており、受診した人は合わせて30.5%であった。



⑤前立腺がん検診（男性のみ）

■「受けていない」が61.6%。一方、受診した人は22.9%。

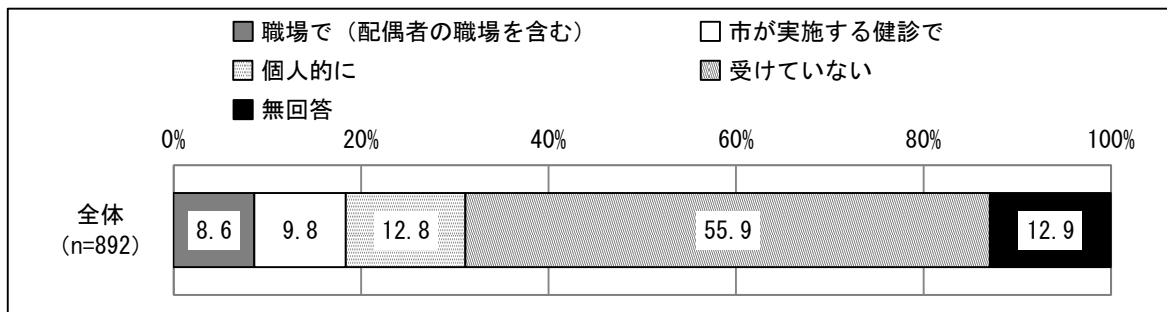
前立腺がん検診については、「受けていない」が61.6%と約6割を占め、「個人的に」が12.0%、「市が実施する健診で」が6.1%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が4.8%となっており、受診した人は合わせて22.9%であった。



⑥乳がん検診（女性のみ）

■「受けていない」が55.9%。一方、受診した人は31.2%。

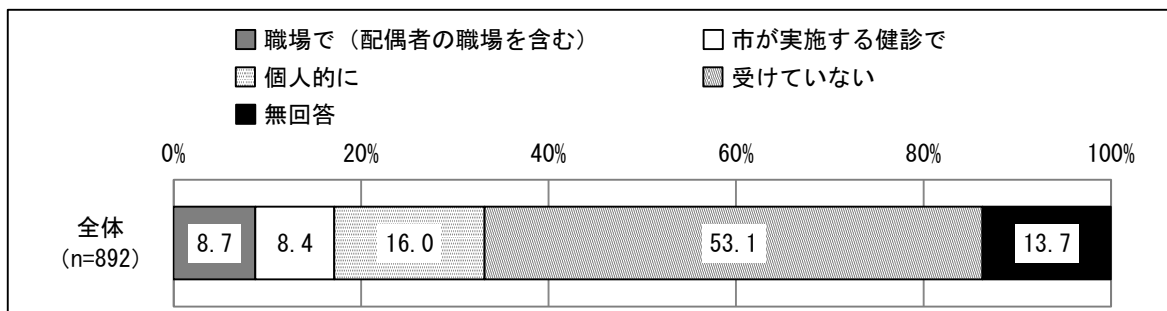
乳がん検診については、「受けていない」が55.9%と半数以上を占め、「個人的に」が12.8%、「市が実施する健診で」が9.8%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が8.6%となっており、受診した人は合わせて31.2%であった。



⑦子宮がん検診（女性のみ）

■子宮がん検診は「受けていない」が53.1%。

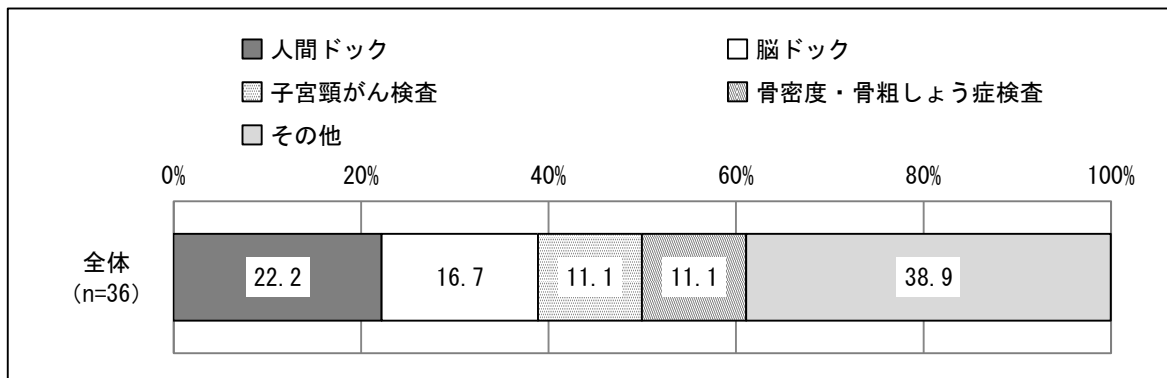
子宮がん検診については、「受けていない」が53.1%で半数以上を占め、「個人的に」が16.0%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が8.7%、「市が実施する健診で」が8.4%となっており、受診した人は合わせて33.1%であった。



⑧その他の検査

■その他の検査として、具体的には「人間ドック」「脳ドック」など。

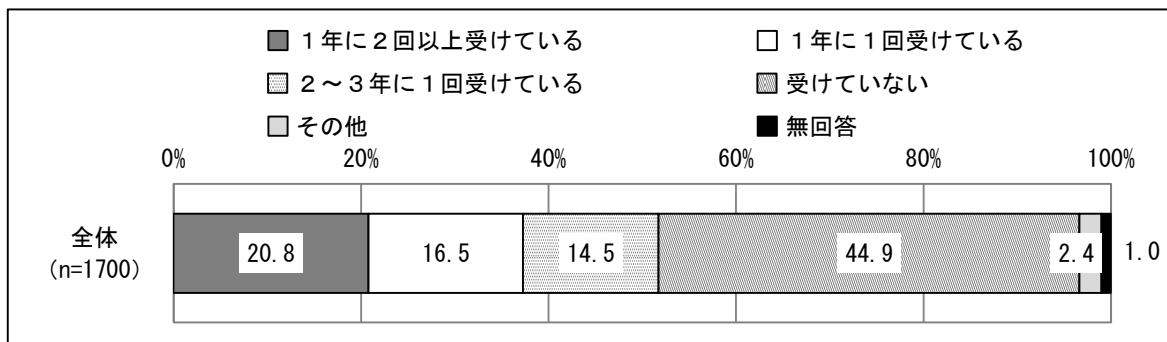
その他の検査について記入した人（36人）の内容を集約すると（記入された）、「人間ドック」が22.2%で最も多く、次いで「脳ドック」（16.7%）、「子宮頸がん検査」、「骨密度・骨粗しょう症検査」（同率11.1%）の順となっている。また、受診方法については、ほとんどが「個人的に」という回答となっている。



（５）定期的な歯科検診

■定期的に歯科検診を受けている人は51.8%。

歯科検診の受診について、「1年に2回以上受けている」が20.8%で最も多く、「1年に1回受けている」が16.5%、「2～3年に1回受けている」が14.5%で、これらを合わせた定期的に受けている人は51.8%となっている。また、「受けていない」と回答した人は44.9%であった。

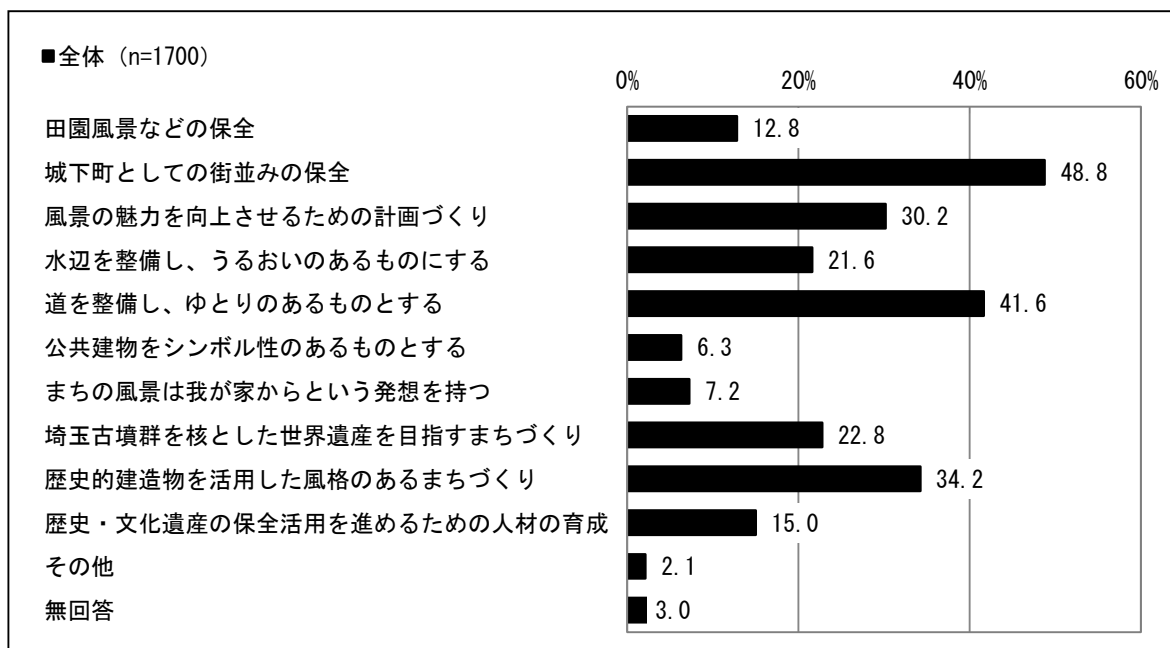


8 景観について

(1) 魅力ある景観づくりに重要なこと

■「城下町としての街並みの保全」が第1位に挙げられ、次いで「道を整備し、ゆとりのあるものとする」が続く。

歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なことは、「城下町としての街並みの保全」(48.8%)が第1位に挙げられ、次いで「道を整備し、ゆとりのあるものとする」(41.6%)が続き、以下、「歴史的建造物を活用した風格のあるまちづくり」(34.2%)、「風景の魅力を向上させるための計画づくり」(30.2%)などの順となっている。

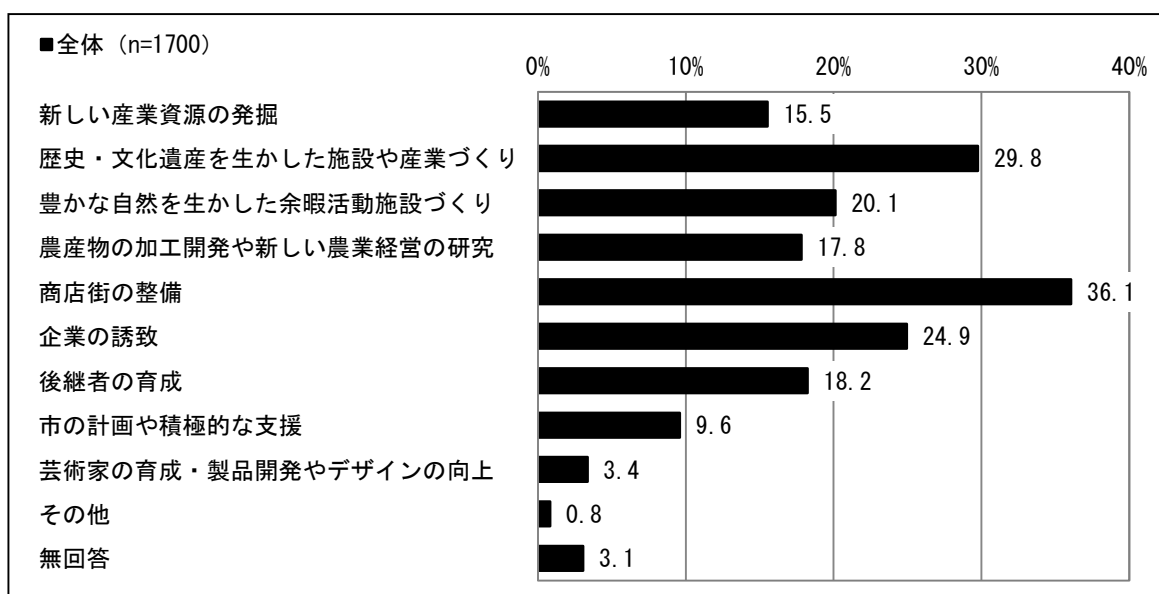


9 産業振興について

(1) 商業や産業の振興に重要なこと

■「商店街の整備」が第1位に挙げられ、次いで「歴史・文化遺産を生かした施設や産業づくり」が続く。

商業や産業の振興に重要なことは、「商店街の整備」(36.1%)が第1位に挙げられ、次いで「歴史・文化遺産を生かした施設や産業づくり」(29.8%)、「企業の誘致」(24.9%)、「豊かな自然を生かした余暇活動施設づくり」(20.1%)、「後継者の育成」(18.2%)などの順となっている。

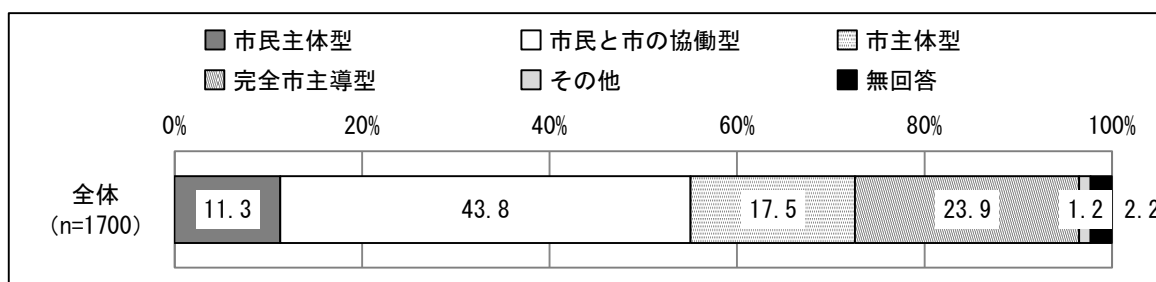


10 公園の管理について

(1) 地域の公園の望ましい維持管理体制

■「市民と市の協働型」が43.8%で最も多く、次いで「完全市主導型」が23.9%で続く。

公園の維持管理については、「市民と市の協働型」が43.8%で最も多く、次いで「完全市主導型」が23.9%、「市主体型」が17.5%、「市民主体型」が11.3%となっている。

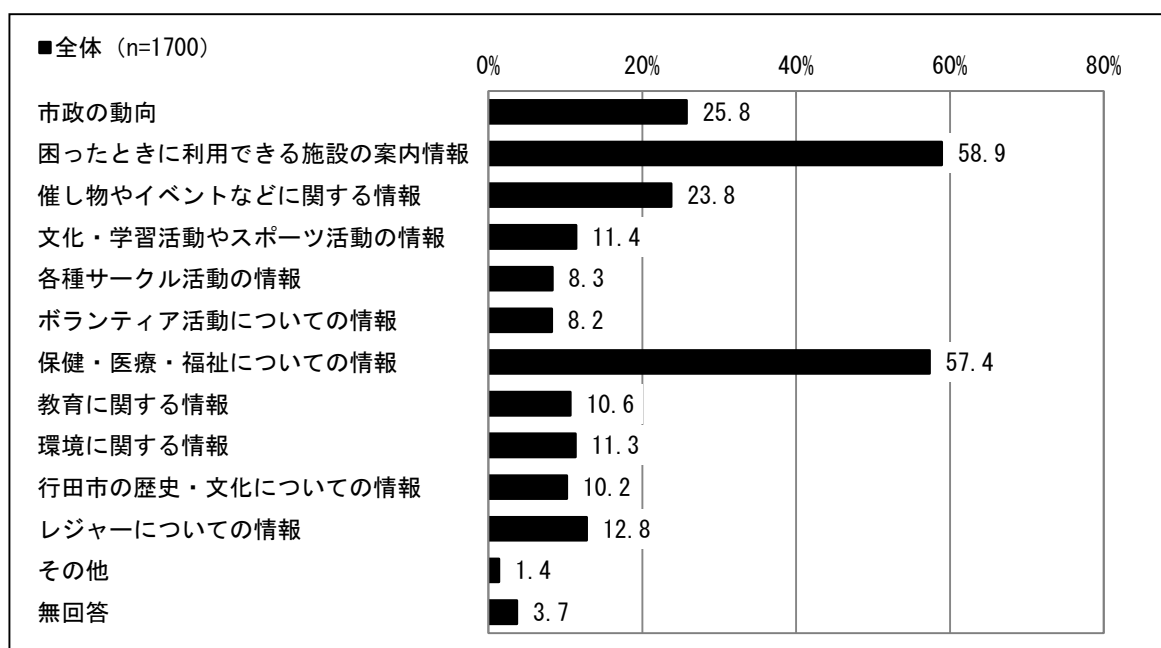


11 市の情報について

(1) 詳しく知りたい市の情報

■詳しく知りたい2大情報は、「困ったときに利用できる施設の案内情報」及び「保健・医療・福祉」。

市から提供される情報の中で詳しく知りたい情報としては、「困ったときに利用できる施設の案内情報」(58.9%)が第1位に挙げられ、次いで「保健・医療・福祉についての情報」(57.4%)が続き、これらが他を大きく引き離して知りたい2大情報となっている。

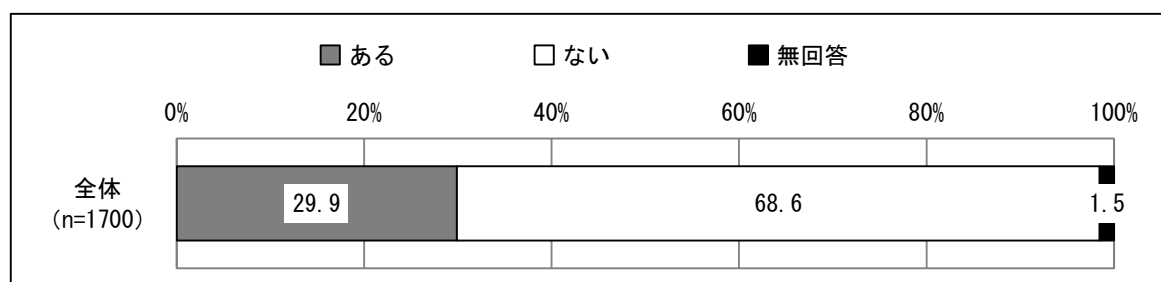


12 市内循環バスについて

(1) 市内循環バスの利用状況

■市内循環バスを利用したことがあるが約3割。

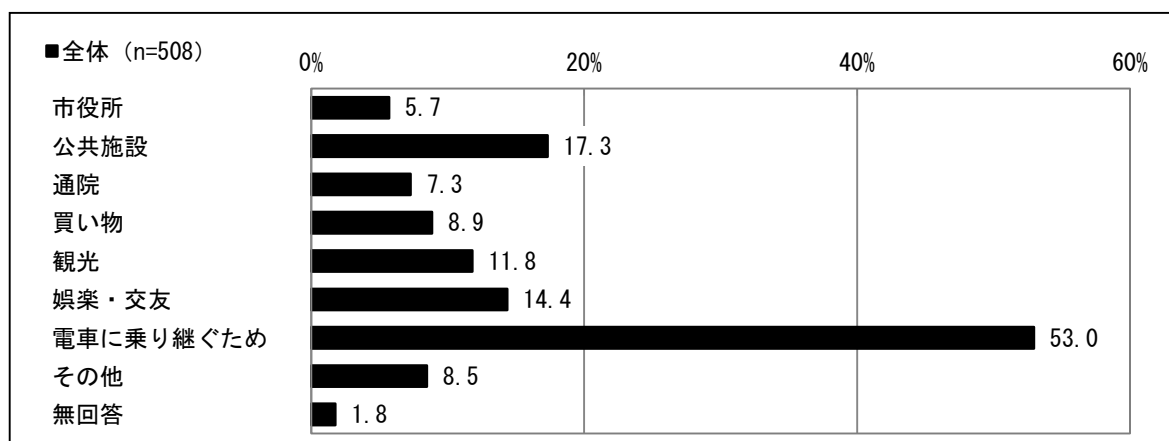
市内循環バスの利用については、「ある」が29.9%と約3割となっている。一方、「ない」は68.6%となっている。



(2) 市内循環バスの利用目的

■利用目的は「電車に乗り継ぐため」が半数以上を占める。

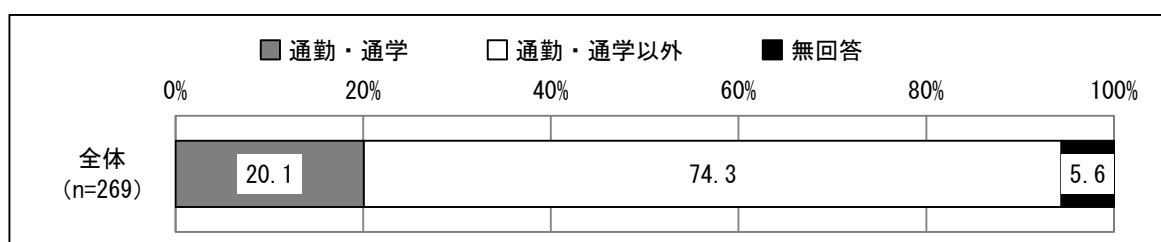
市内循環バスを利用したことのある人（508 人）に利用目的を尋ねたところ、「電車に乗り継ぐため」が 53.0%と半数以上を占め、次いで「公共施設」（17.3%）、「娯楽・交友」（14.4%）、「観光」（11.8%）などの順となっている。



(3) 電車乗り継ぎの利用目的

■電車乗り継ぎのために市内循環バスを利用している人の目的は、「通勤・通学以外」が 74.3%と 7 割以上を占め、「通勤・通学」は 20.1%となっている。

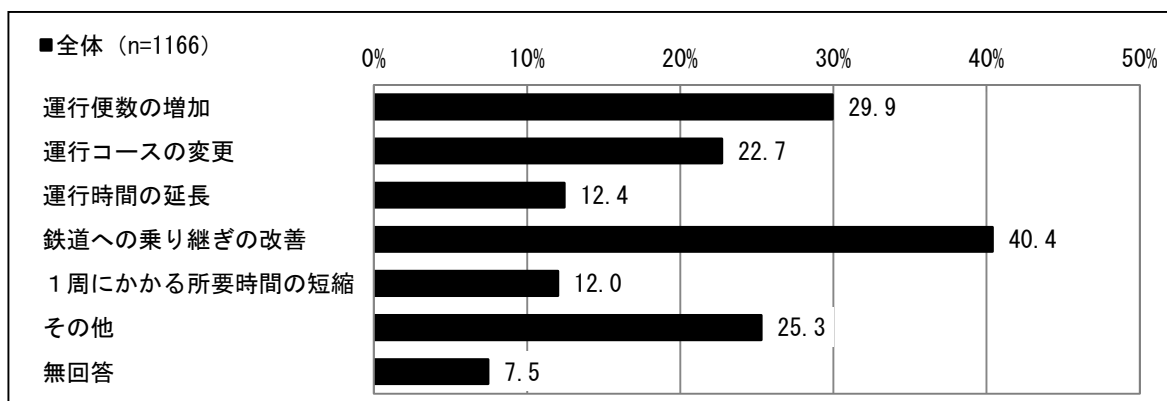
電車乗り継ぎのために市内循環バスを利用している人（269 人）に、その目的を尋ねたところ、「通勤・通学以外」が 74.3%と 7 割以上を占め、「通勤・通学」は 20.1%となっている。



(4) 市内循環バスの今後の利用条件

■「鉄道への乗り継ぎの改善」が第1位。次いで「運行便数の増加」の順。

市内循環バスを利用したことがない人(1,166人)に今後の利用条件を尋ねたところ、「鉄道への乗り継ぎの改善」(40.4%)が第1位に挙げられ、次いで「運行便数の増加」(29.9%)、「運行コースの変更」(22.7%)などの順となっている。

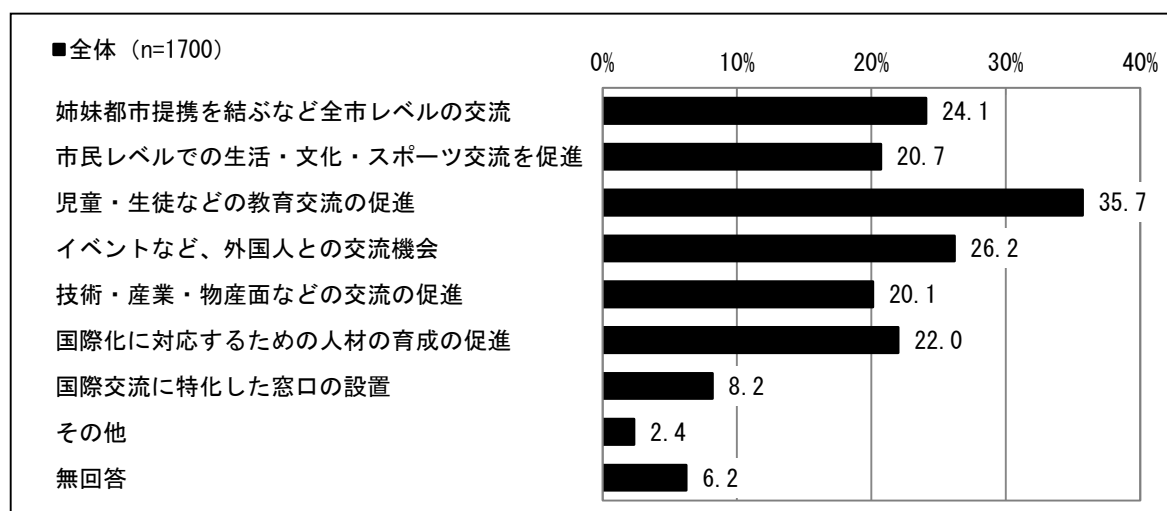


13 国際交流について

(1) 望ましい国際交流の促進方法

■「児童・生徒などの教育交流の促進」が第1位。

望ましい国際交流の促進方法は、「児童・生徒などの教育交流を促進」(35.7%)が第1位に挙げられ、次いで「イベントなど、外国人との交流機会」(26.2%)、「姉妹都市提携を結ぶなど全市レベルの交流」(24.1%)、「国際化に対応するための人材の育成を促進」(22.0%)などの順となっている。

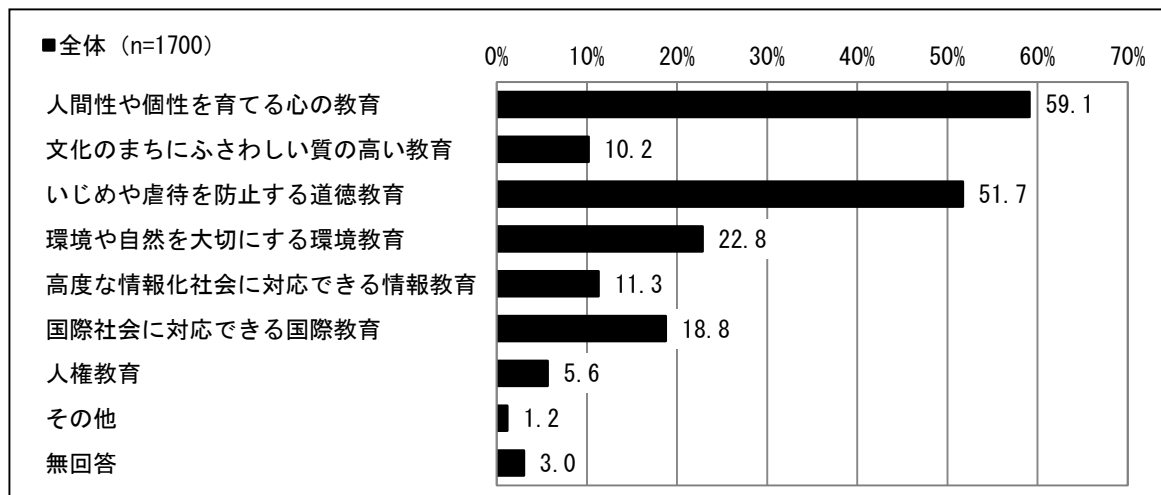


14 市の教育方針について

(1) 力を入れるべき教育

■「人間性や個性を育てる心の教育」及び「いじめや虐待を防止する道徳教育」が2大要望。

力を入れるべき教育は、「人間性や個性を育てる心の教育」(59.1%)が第1位に挙げられ、次いで「いじめや虐待を防止する道徳教育」(51.7%)が続き、これらが他を大きく引き離して2大要望となっている。

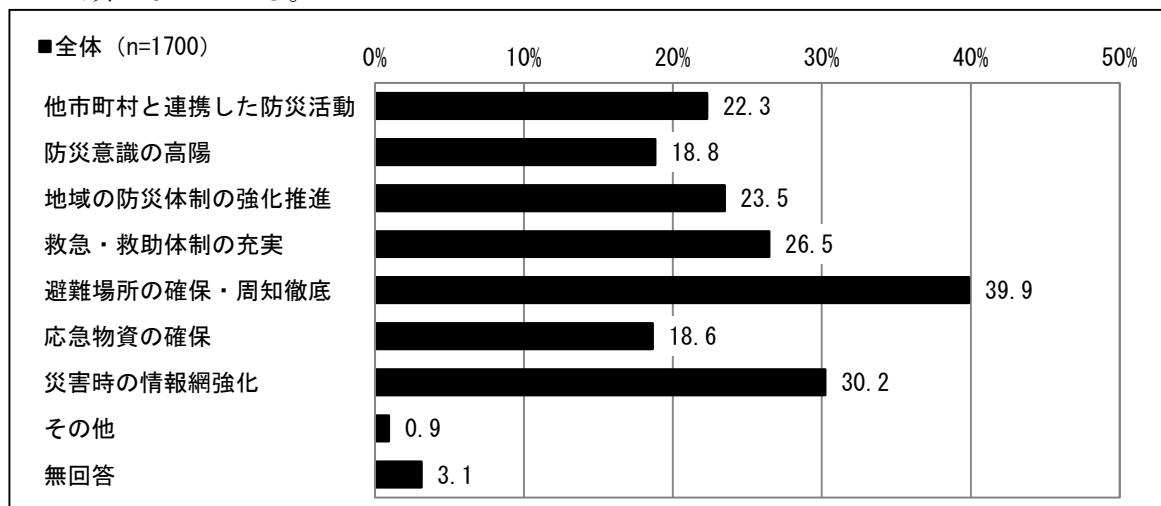


15 防災体制について

(1) 防災体制として重要なこと

■「避難場所の確保・周知徹底」が第1位。次いで「災害時の情報網強化」が続く。

防災体制として重要なことは、「避難場所の確保・周知徹底」(39.9%)が第1位に挙げられ、次いで「災害時の情報網強化」(30.2%)、「救急・救助体制の充実」(26.5%)、「地域の防災体制の強化推進」(23.5%)、「他市町村と連携した防災活動」(22.3%)などの順となっている。

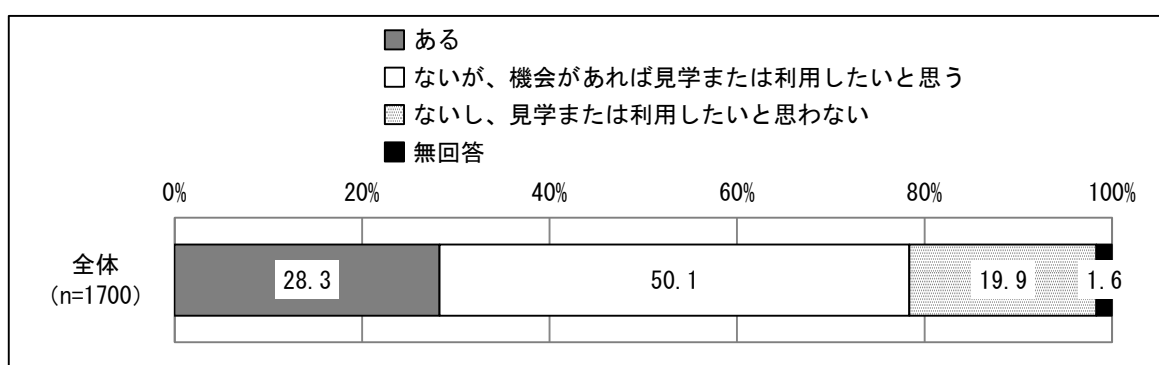


16 ものづくり大学について

(1) ものづくり大学施設の見学・利用状況

■「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」が約半数を占め、見学・利用意向のある人が約8割。

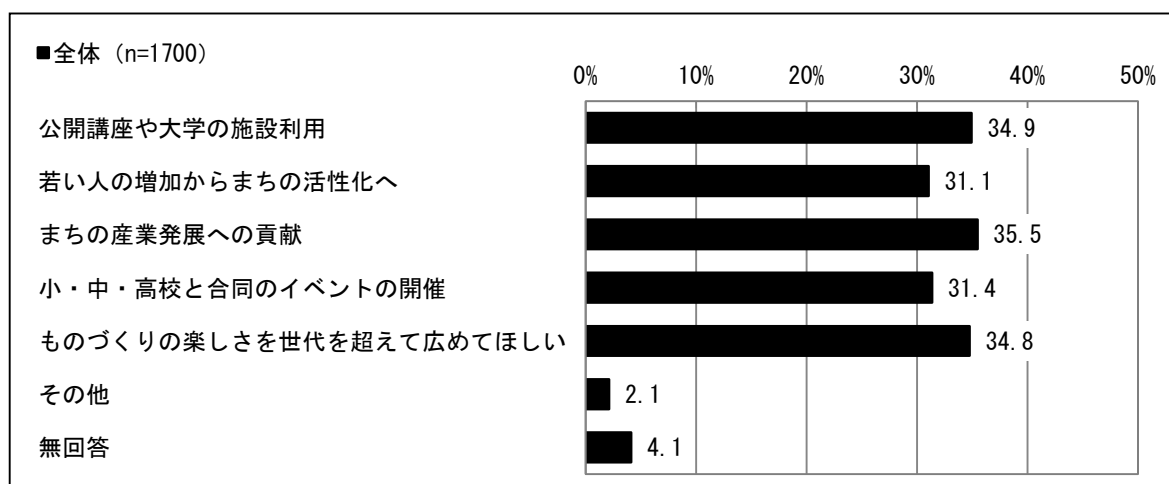
ものづくり大学施設の見学・利用状況については、「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」が50.1%と最も多く、次いで「ある」が28.3%、「ないし、見学または利用したいと思わない」が19.9%となっている。大学の見学・利用意向がある割合（「ある」及び「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」の合計）は78.4%と約8割を占めている。



(2) ものづくり大学に期待すること

■「まちの産業発展への貢献」が第1位。次いで「公開講座や大学の施設利用」、「ものづくりの楽しさを世代を超えて広めてほしい」の順。

ものづくり大学に期待することは、「まちの産業発展への貢献」(35.5%)が第1位に挙げられ、次いで「公開講座や大学の施設利用」(34.9%)、「ものづくりの楽しさを世代を超えて広めてほしい」(34.8%)、「小・中・高校と合同のイベントの開催」(31.4%)、「若い人の増加からまちの活性化へ」(31.1%)などの順となっている。



17 市民の通勤、買い物などの行き先について

(1) 市民の通勤・通学、買い物などの主な行き先

■『②日常的な買い物』『④病院等の利用』は「市内」、『③週末の買い物』では「近隣市町」、『⑧自然を親しむ近距離の行楽』『⑨歴史・文化に親しむ近距離の行楽』では「県外」が最も多い。一方、『①通勤先・通学先』『⑤スポーツ・レクリエーション』『⑥生涯学習、サークル、文化活動』『⑦音楽会、観劇、美術鑑賞等』では、「そのような行動はしていない」が最も多い。

通勤・通学、買い物などの主な行き先を尋ねたところ、『①通勤先・通学先』では「そのような行動はしていない」(28.6%)が最も多く、次いで「市内」(24.4%)、「近隣市町」(17.6%)などの順となっている。

『②日常的な買い物』では「市内」(71.2%)が最も多く、次いで「近隣市町」(21.1%)、「県内」(3.7%)などの順となっている。

『③週末の買い物』では「近隣市町」(44.4%)が最も多く、次いで「市内」(36.8%)、「県内」(6.6%)などの順となっている。

『④病院などの利用』では「市内」(63.2%)が最も多く、次いで「近隣市町」(22.6%)、「県内」(6.4%)などの順となっている。

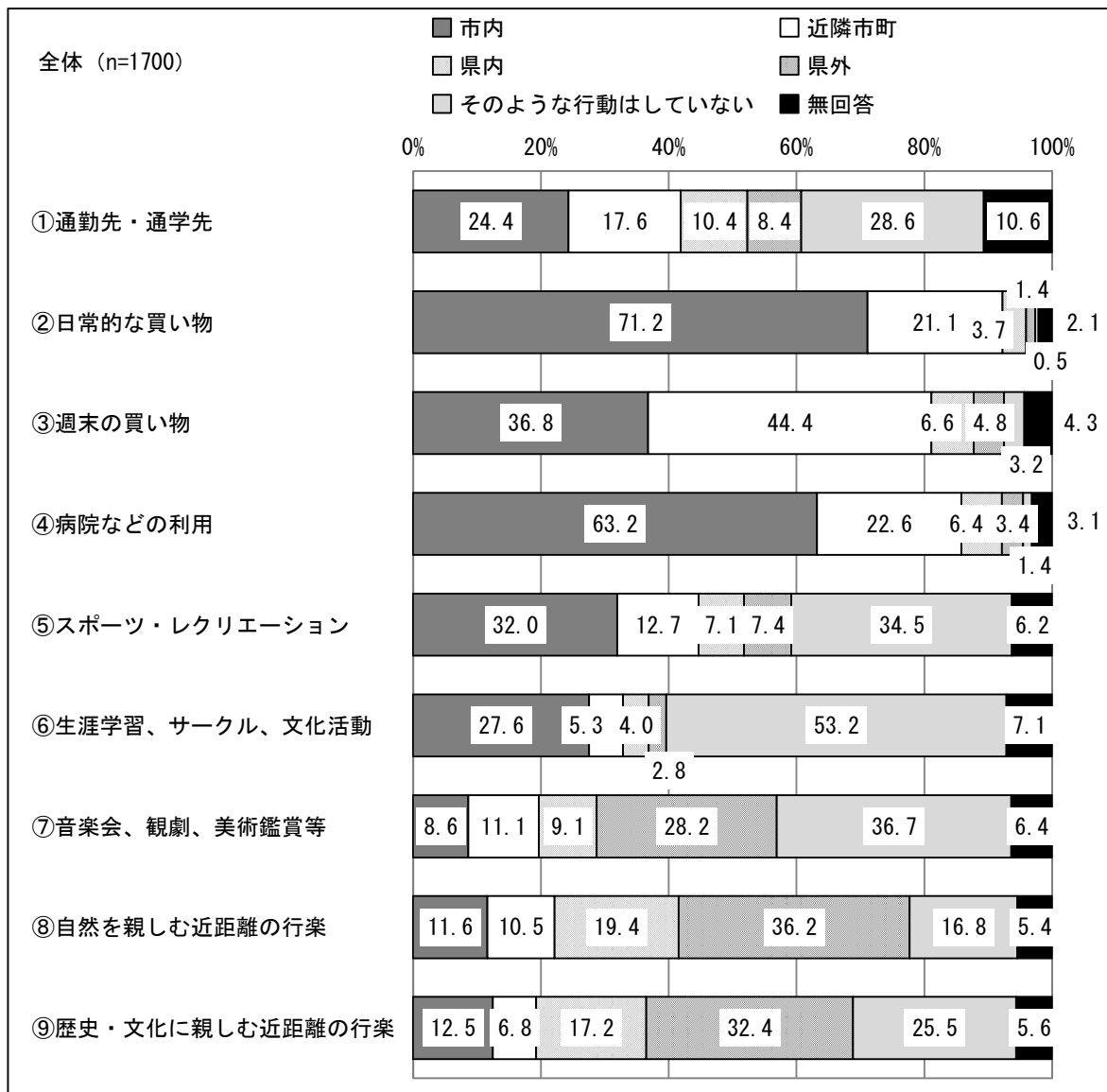
『⑤スポーツ・レクリエーション』では「そのような行動はしていない」(34.5%)が最も多く、次いで「市内」(32.0%)、「近隣市町」(12.7%)などの順となっている。

『⑥生涯学習、サークル、文化活動』では「そのような行動はしていない」(53.2%)が最も多く、次いで「市内」(27.6%)、「近隣市町」(5.3%)などの順となっている。

『⑦音楽会、観劇、美術鑑賞等』では「そのような行動はしていない」(36.7%)が最も多く、次いで「県外」(28.2%)、「近隣市町」(11.1%)などの順となっている。

『⑧自然を親しむ近距離の行楽』では「県外」(36.2%)が最も多く、次いで「県内」(19.4%)、「そのような行動はしていない」(16.8%)などの順となっている。

『⑨歴史・文化に親しむ近距離の行楽』では「県外」(32.4%)が最も多く、次いで「そのような行動はしていない」(25.5%)、「県内」(17.2%)などの順となっている。

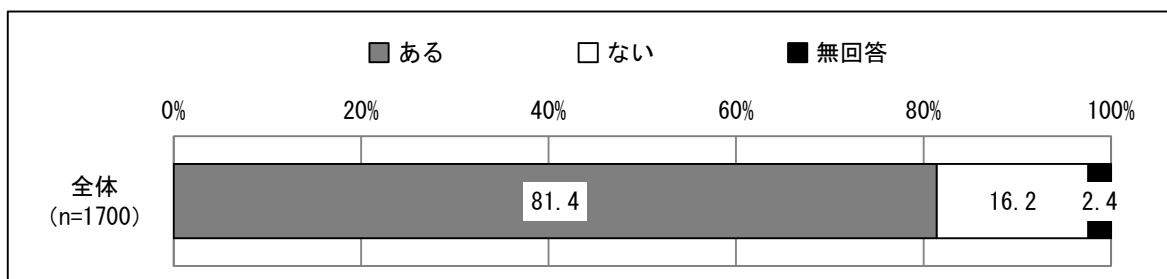


18 インターネットの利用について

(1) インターネットが利用できる環境

■インターネットの利用ができる環境が「ある」が81.4%。

インターネットが利用できる環境があるかについては、「ある」が81.4%と8割以上を占める一方、「ない」は16.2%となっている。

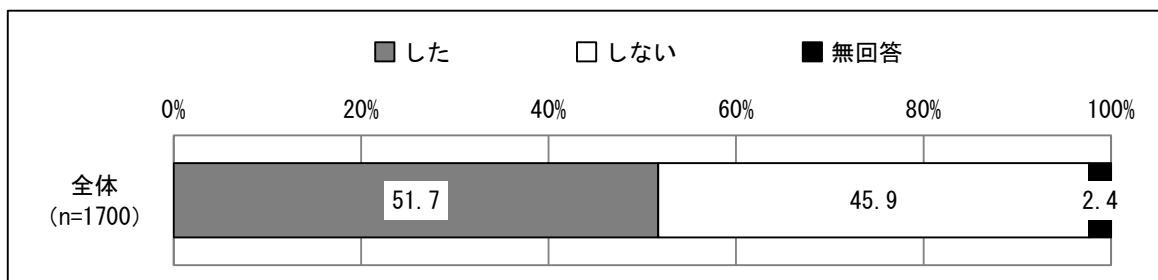


19 スポーツや運動について

(1) 運動やスポーツ活動の有無

■ここ1年間で運動やスポーツをした人は51.7%。

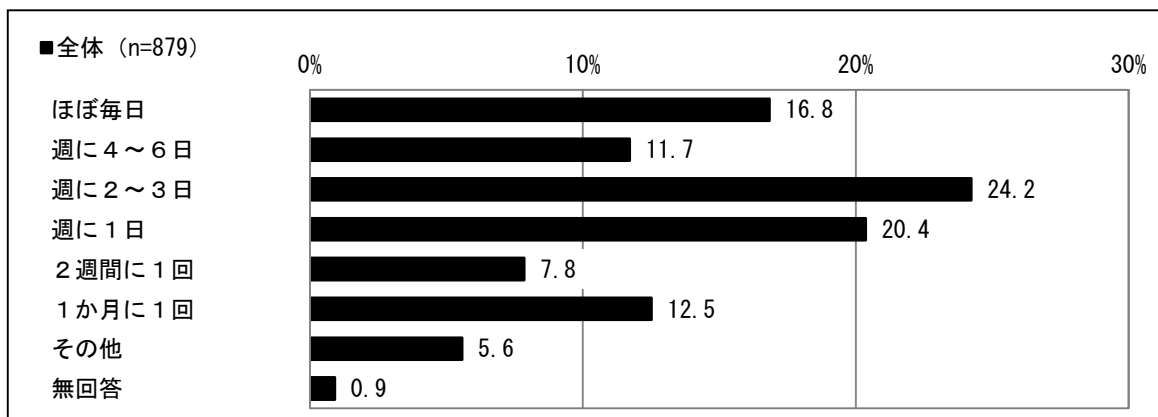
この1年間の運動やスポーツ活動の有無は、「した」が51.7%と半数強となっており、一方、「しない」は45.9%となっている。



(2) スポーツ活動の頻度

■「週に2～3日」「週に1日」が2割以上。

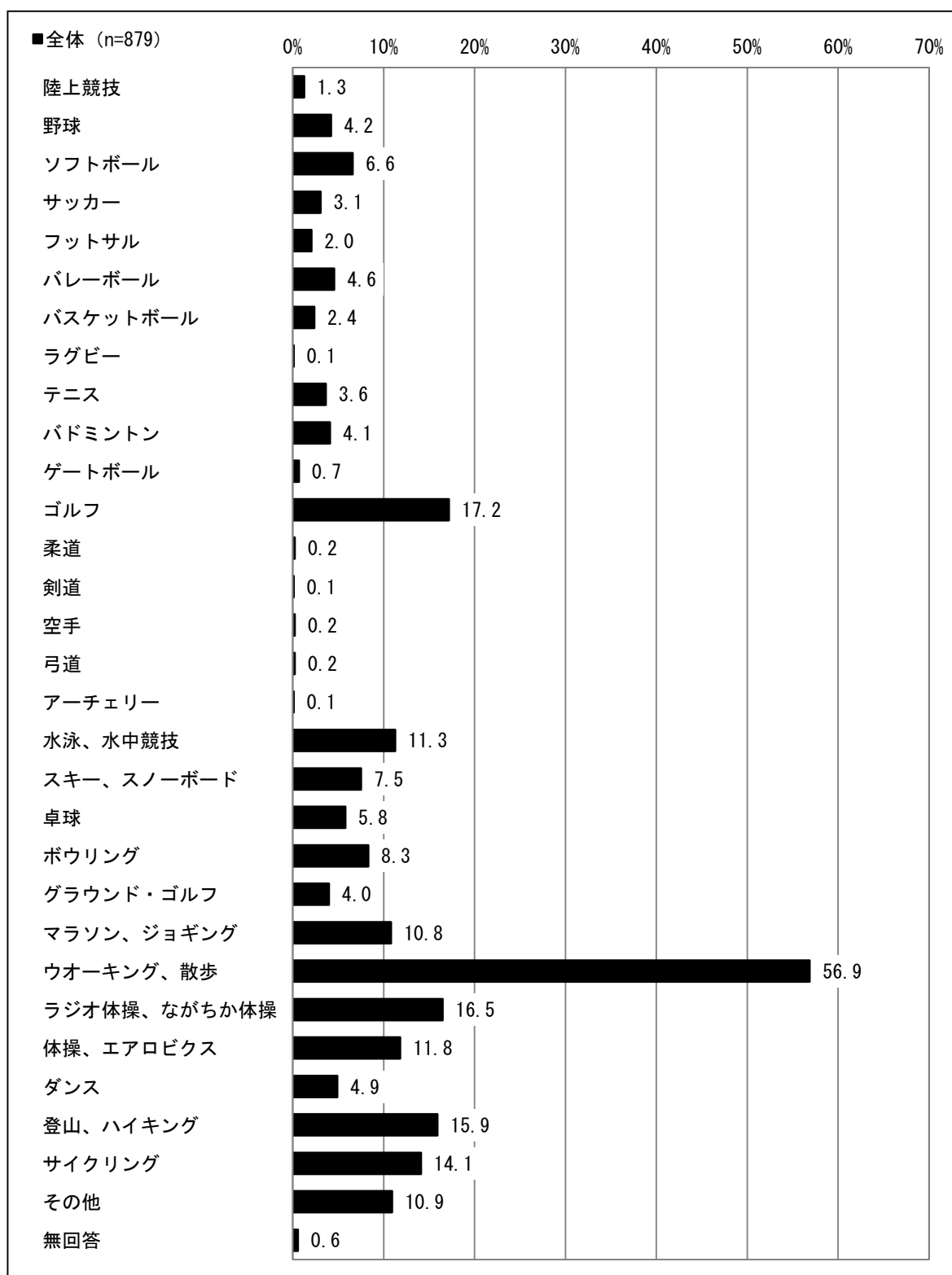
運動をした人(879人)に、平均するとどの程度、運動やスポーツを行うかを尋ねたところ、「週に2～3日」が24.2%で最も多く、次いで「週に1日」(20.4%)、「ほぼ毎日」(16.8%)などの順となっている。



(3) この1年間に行った運動・スポーツ

■「ウォーキング、散歩」が他を大きく引き離して第1位。

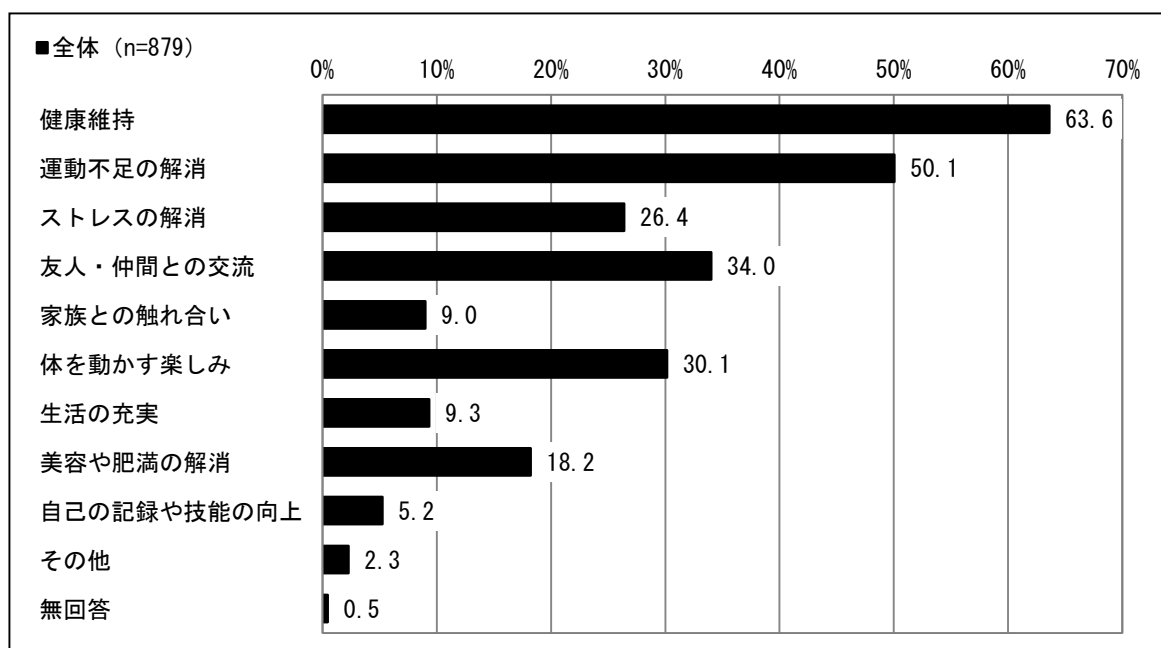
運動をした人(879人)に、この1年間に行った運動・スポーツを尋ねたところ、「ウォーキング・散歩」が56.9%と他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「ゴルフ」(17.2%)、「ラジオ体操、ながちか体操」(16.5%)、「登山、ハイキング」(15.9%)、「サイクリング」(14.1%)などの順となっている。



(4) 運動する理由

■「健康維持」が第1位。次いで「運動不足の解消」が続く。

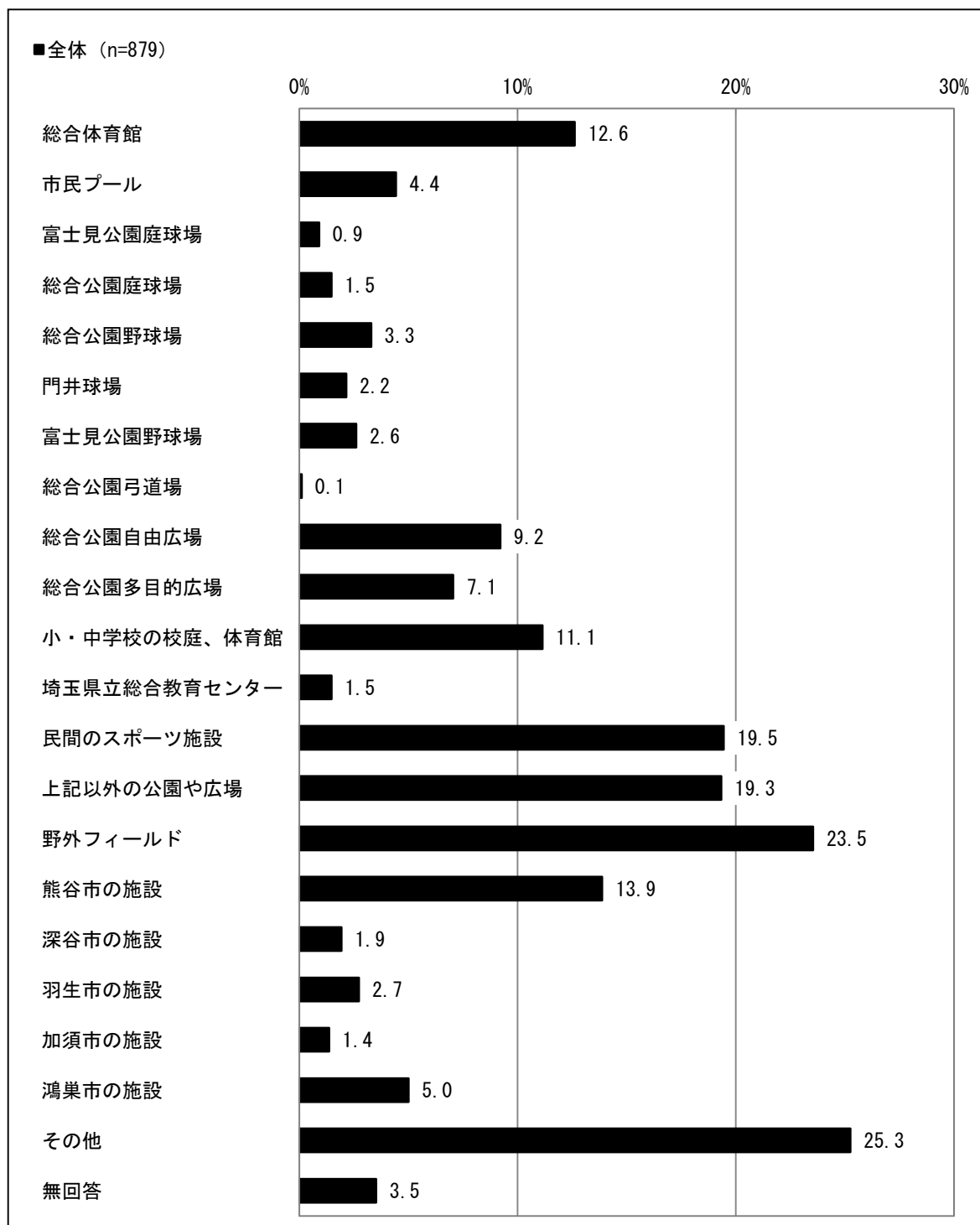
運動をした人（879 人）に、運動やスポーツを行う理由を尋ねたところ、「健康維持」（63.6%）が第1位に挙げられ、次いで「運動不足の解消」（50.1%）、「友人・仲間との交流」（34.0%）、「体を動かす楽しみ」（30.1%）、「ストレスの解消」（26.4%）などの順となっている。



(5) 運動を行う場所

■「その他」が最も多く、「野外フィールド」、「民間のスポーツ施設」が続く。

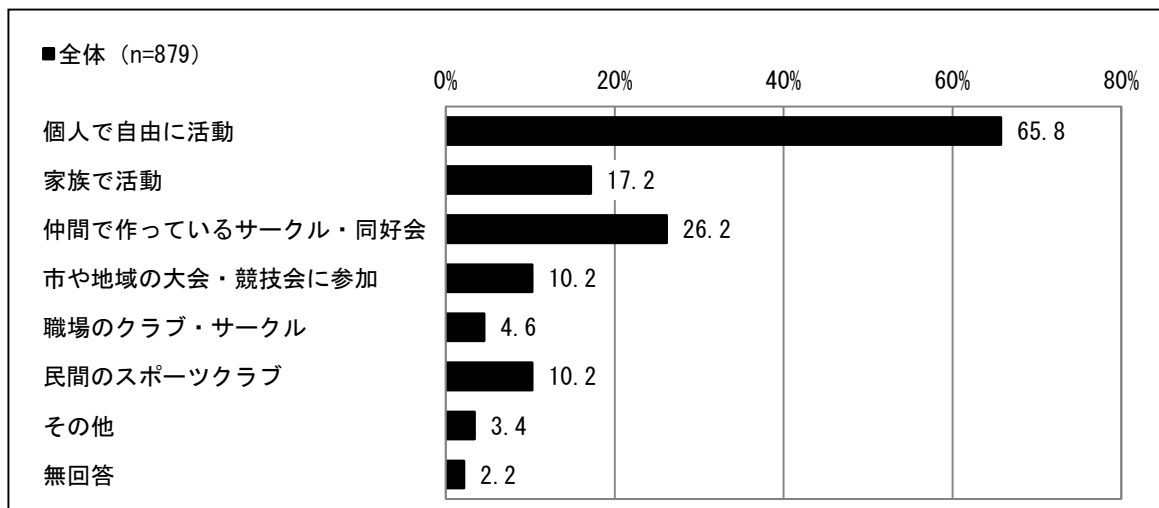
運動をした人（879人）に、運動・スポーツを行う場所を尋ねたところ、「その他」が第1位に挙げられ、次いで「野外フィールド」（23.5%）、「民間のスポーツ施設」（19.5%）、「上記以外の公園や広場」（19.3%）、「熊谷市の施設」（13.9%）、「総合体育館」（12.6%）、「小・中学校の校庭、体育館」（11.1%）などの順となっている。なお、「その他」の回答としては、自宅周辺、公民館や県外の施設などが挙げられている。



(6) 運動・スポーツの取り組み方

■「個人で自由に活動」が第1位。次いで「仲間で作っているサークル・同好会」、「家族で活動」などの順。

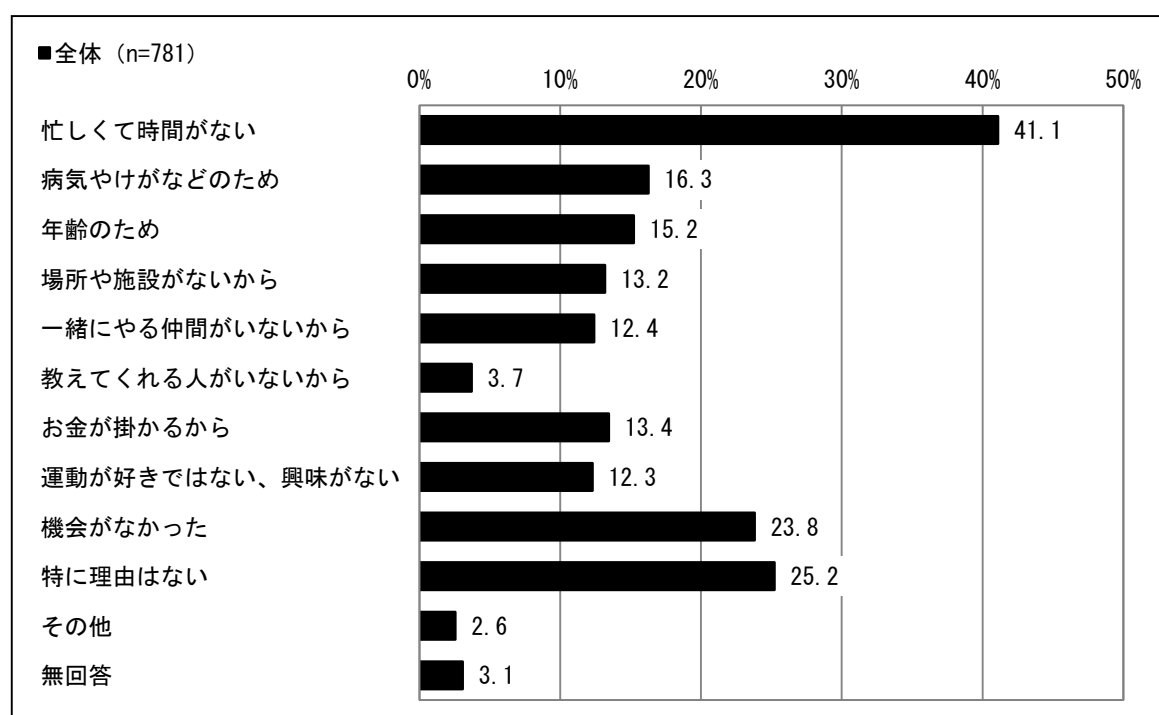
運動した人(879人)に、どのように運動・スポーツを行っているかを尋ねたところ、「個人で自由に活動」(65.8%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「仲間で作っているサークル・同好会」(26.2%)、「家族で活動」(17.2%)などの順となっている。



(7) 運動しなかった理由

■「忙しくて時間がない」が第1位。

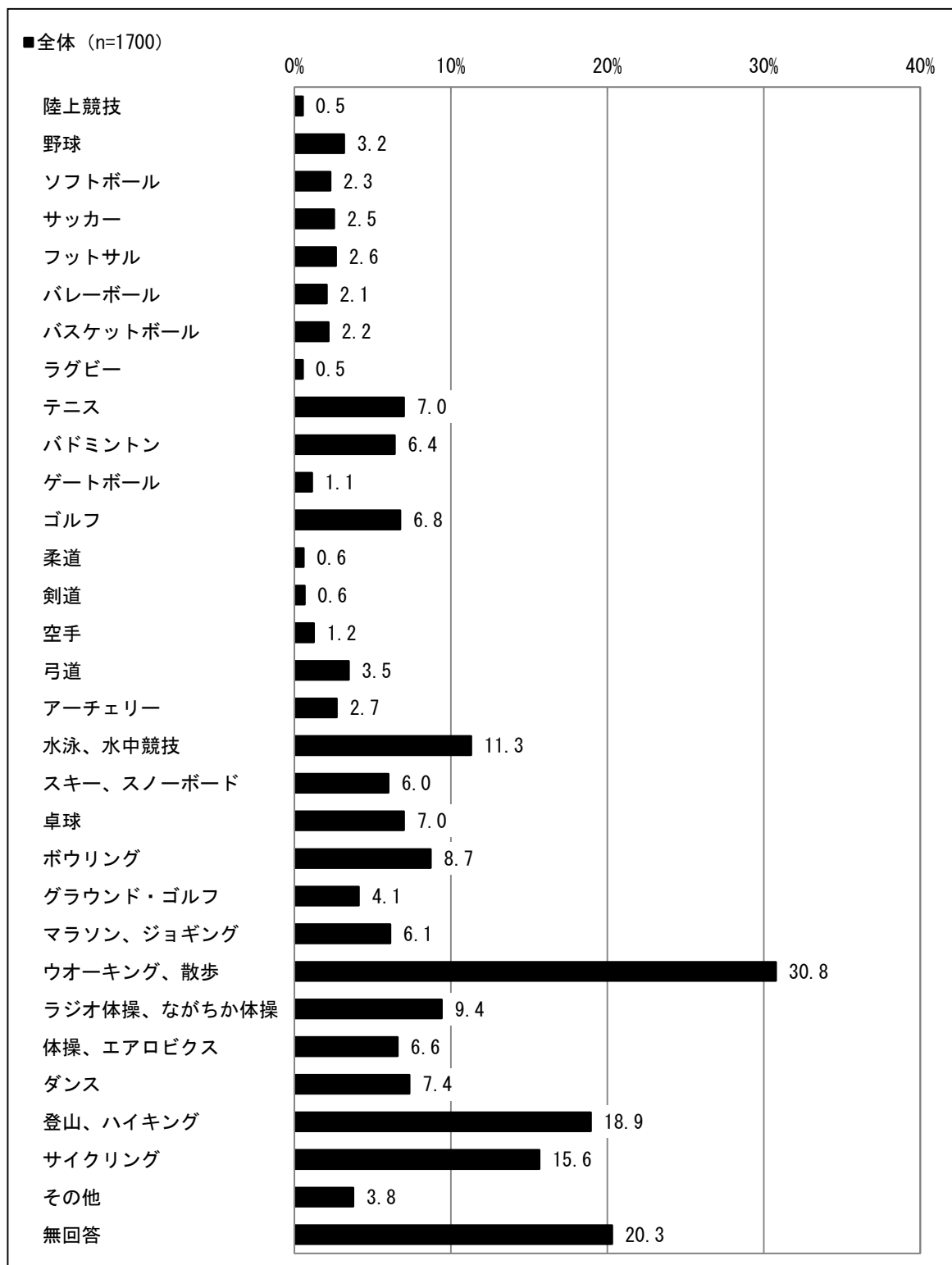
運動しなかった人(781人)に、運動やスポーツを行わなかった理由を尋ねたところ、「忙しくて時間がない」(41.1%)が第1位に挙げられ、次いで「機会がなかった」(23.8%)、「病気やけがなどのため」(16.3%)、「年齢のため」(15.2%)などの順となっている。なお、「特に理由はない」は25.2%であった。



(8) 今後やってみたい運動

■「ウォーキング、散歩」が第1位。次いで「登山、ハイキング」、「サイクリング」の順。

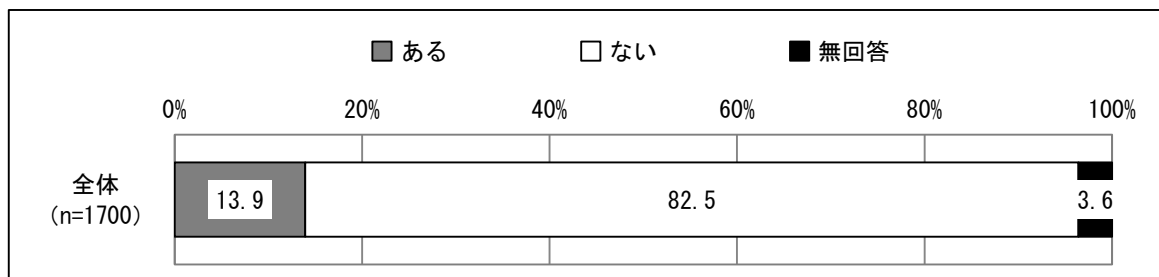
今後やってみたい運動については、「ウォーキング、散歩」(30.8%)が第1位に挙げられ、次いで「登山、ハイキング」(18.9%)、「サイクリング」(15.6%)、「水泳、水中競技」(11.3%)、「ラジオ体操、ながちか体操」(9.4%)、「ボウリング」(8.7%)などの順となっている。



(9) 市のスポーツ施設の利用経験

■「ない」が82.5%、「ある」が13.9%。

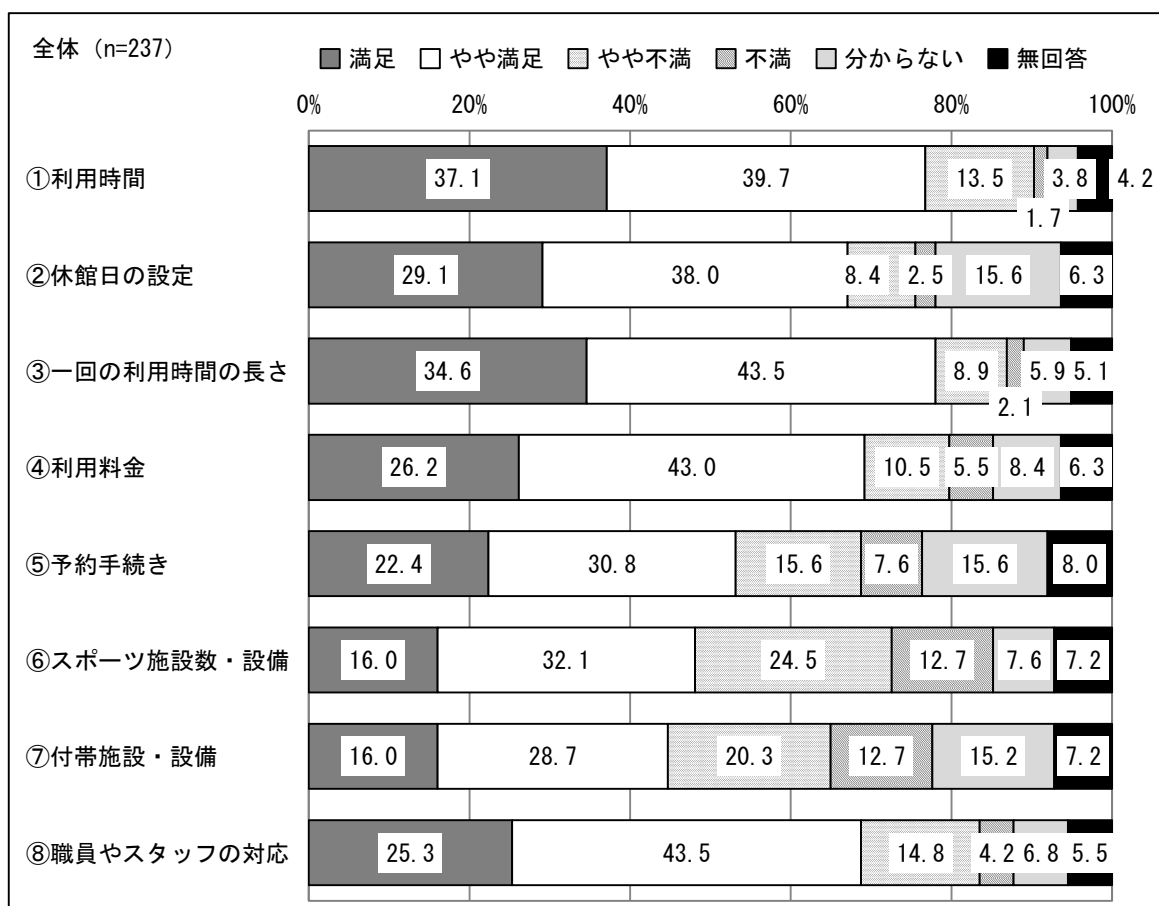
この1年間に市のスポーツ施設を利用したかを尋ねたところ、「ない」が82.5%と8割以上を占め、「ある」は13.9%にとどまる。



(10) スポーツ施設の満足度

■『⑥スポーツ施設数・設備』に対する不満が最も多い。

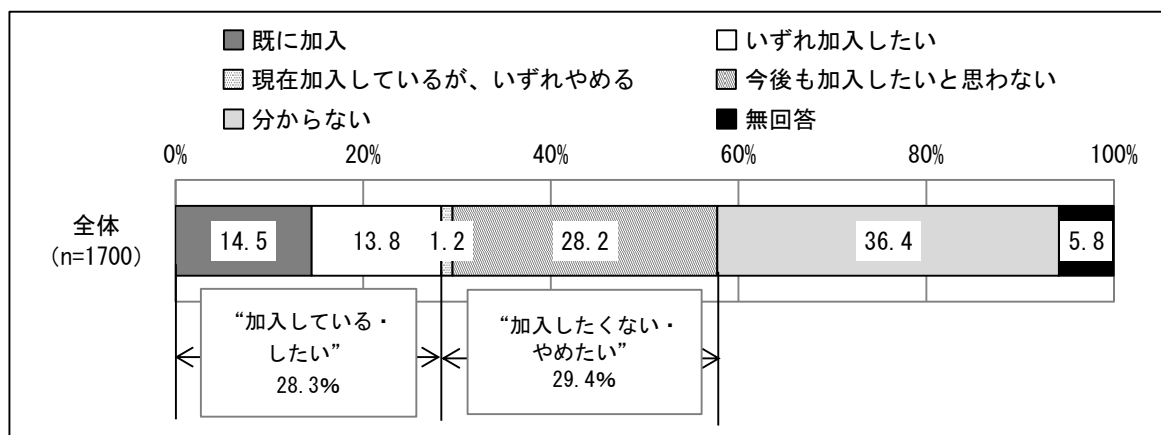
市のスポーツ施設を利用したことがある人（237人）に、市のスポーツ施設の満足度について尋ねた結果を、“不満”（「やや不満」及び「不満」の合計）と回答した割合で見ると、『⑥スポーツ施設数・設備』で“不満”が37.2%と最も多く、次いで『⑦付帯施設・設備』（33.0%）、『⑤予約手続き』（23.2%）、『⑧職員やスタッフの対応』（19.0%）などの順となっている。



(11) 運動サークルなどへの加入状況

■ “加入している・したい” が 28.3%、“加入したくない・やめたい” が 29.4%。

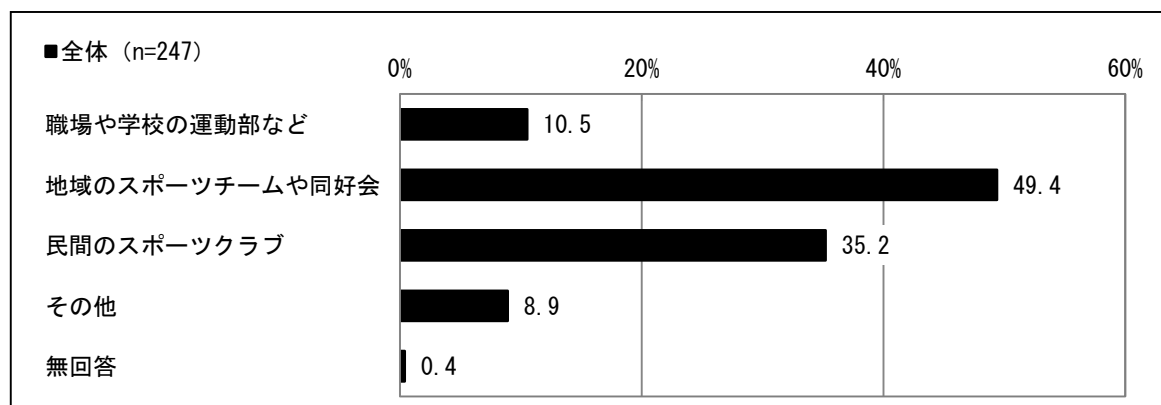
運動サークルなどへの加入状況については、「既に参加」(14.5%)と「いずれ参加したい」(13.8%)を合わせた“加入している・したい”が28.3%となっており、「現在参加しているが、いずれやめる」(1.2%)と「今後も参加したいと思わない」(28.2%)を合わせた“加入したくない・やめたい”が29.4%となっている。なお、「分からない」は36.4%であった。



(12) 所属している運動サークルなど

■ 「地域のスポーツチームや同好会」が第1位。次いで「民間のスポーツクラブ」が続く。

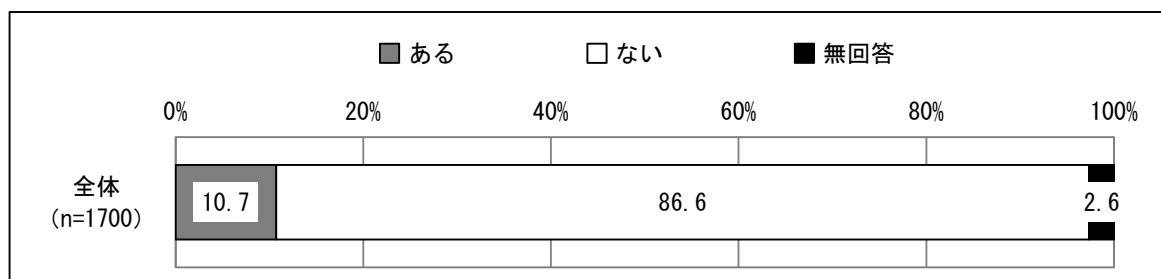
運動サークルなどに加入している人(247人)に、所属している運動サークルについて尋ねたところ、「地域のスポーツ施設や同好会」(49.4%)が第1位に挙げられ、次いで「民間のスポーツクラブ」(35.2%)、「職場や学校の運動部など」(10.5%)の順となっている。



(13) 市主催のスポーツイベントへの参加経験

■「ない」が86.6%、「ある」が10.7%。

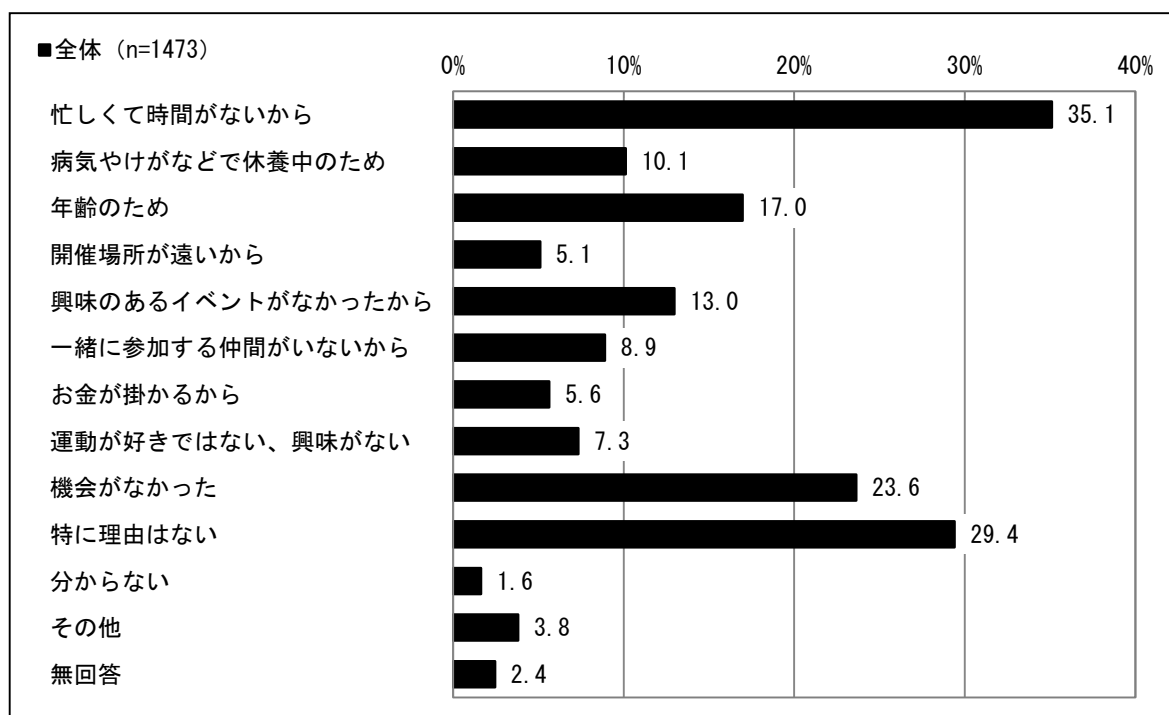
市主催のスポーツイベントの参加経験について、「ない」が86.6%と8割以上を占めており、「ある」は10.7%と約1割にとどまっている。



(14) スポーツイベントに参加しなかった理由

■「忙しくて時間がないから」が第1位。次いで「特に理由はない」、「機会がなかった」などの順。

スポーツイベントに参加しなかった人(1,473人)に、その理由を尋ねたところ、「忙しくて時間がないから」(35.1%)が第1位に挙げられ、次いで「特に理由はない」(29.4%)、「機会がなかった」(23.6%)、「年齢のため」(17.0%)、「興味のあるイベントがなかったから」(13.0%)、「病気やけがなどで療養中のため」(10.1%)などの順となっている。

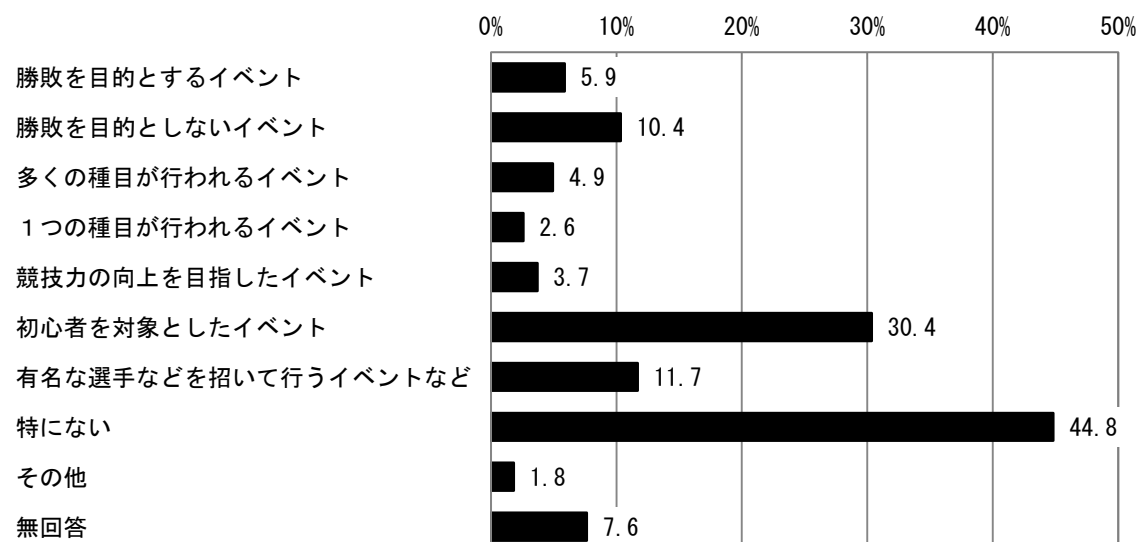


(15) 参加したいスポーツイベント

■「初心者を対象としたイベント」が最も多い。

参加したいスポーツイベントについては、「特にない」が44.8%で第1位となっており、次いで「初心者を対象としたイベント」(30.4%)、「有名な選手などを招いて行うイベントなど」(11.7%)、「勝敗を目的としないイベント」(10.4%)などの順となっている。

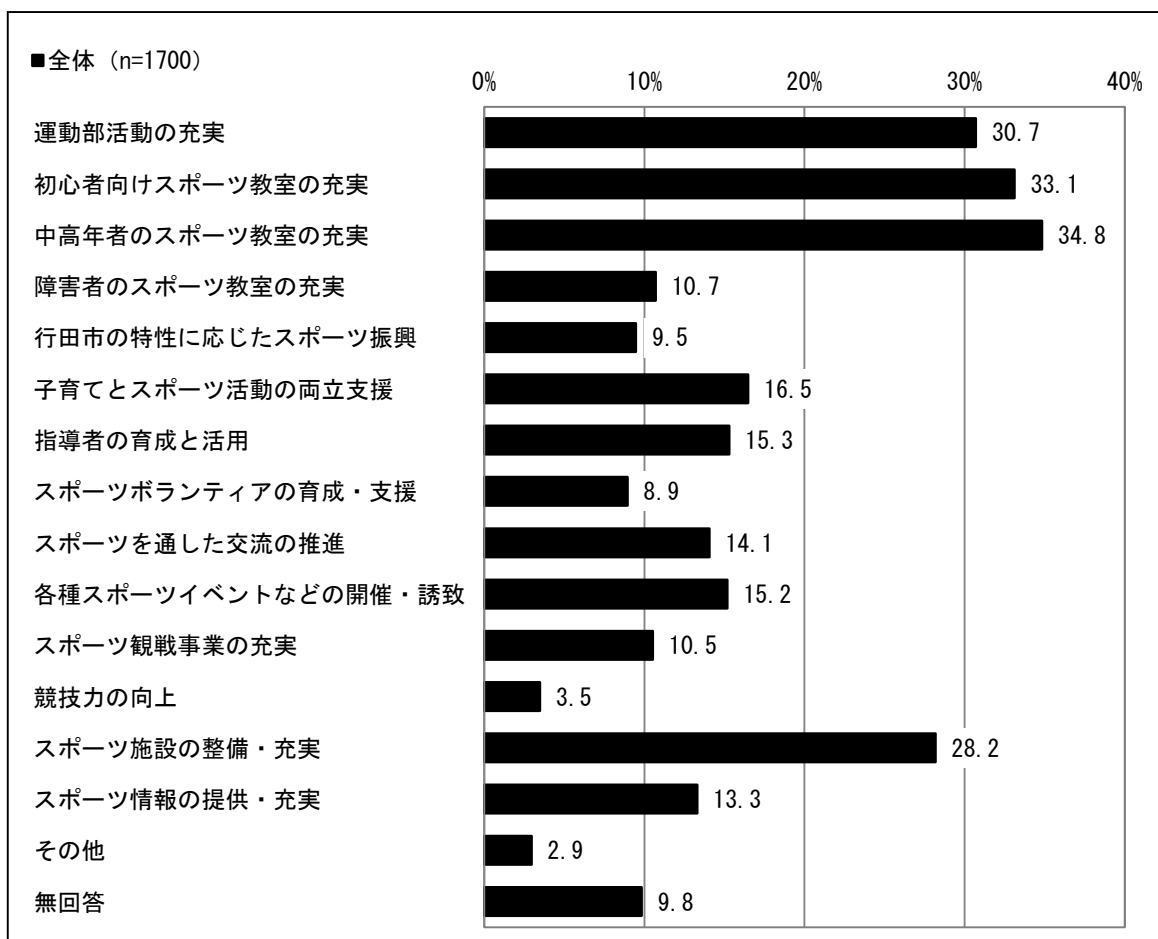
■全体 (n=1700)



(16) スポーツ振興のために必要な取組

■「中高年者のスポーツ教室の充実」が第1位。次いで「初心者向けスポーツ教室の充実」、「運動部活動の充実」などの順。

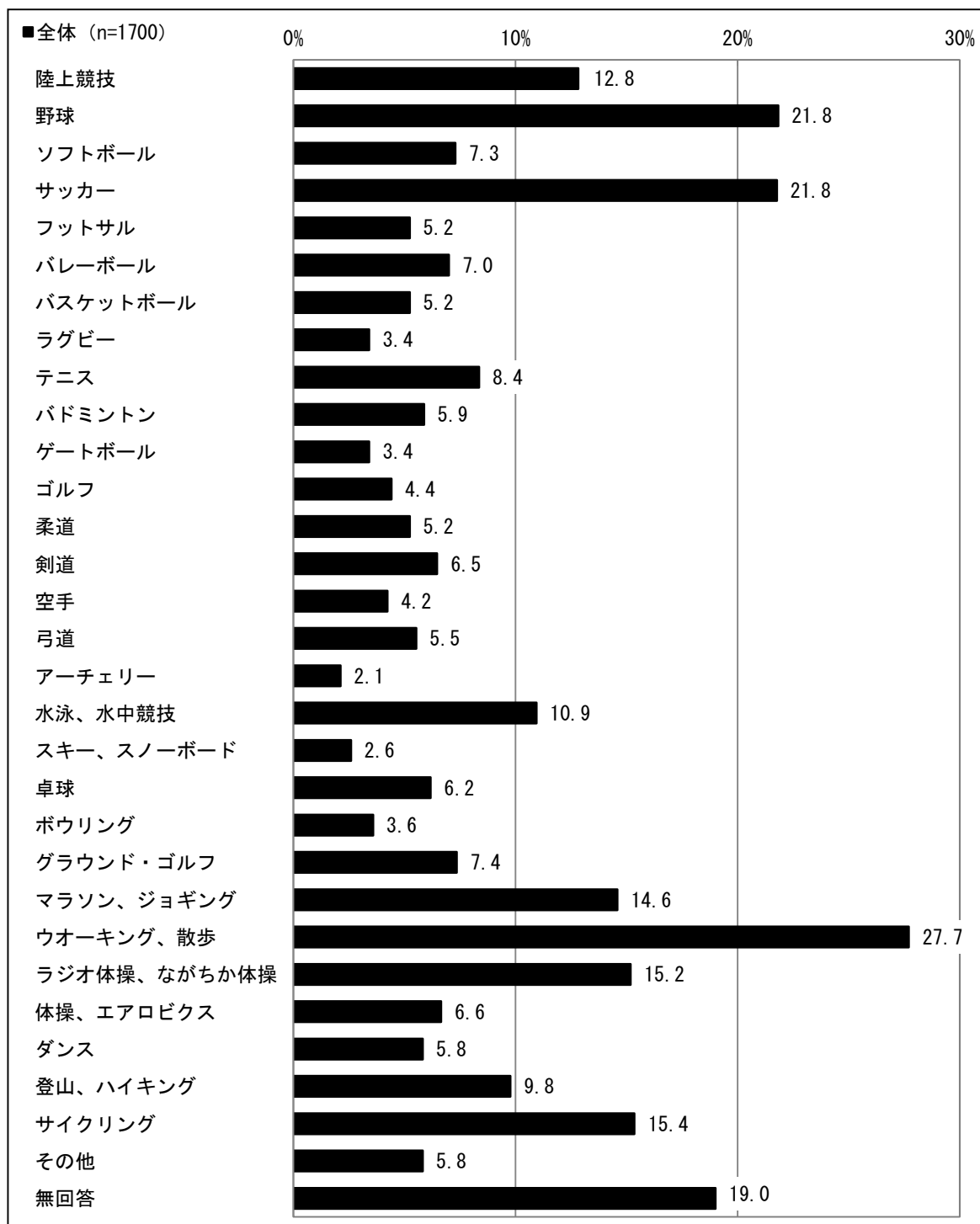
スポーツ振興のために必要な取組については、「中高年者のスポーツ教室の充実」(34.8%)が第1位に挙げられ、次いで「初心者向けスポーツ教室の充実」(33.1%)、「運動部活動の充実」(30.7%)、「スポーツ施設の整備・充実」(28.2%)などの順となっている。



(17) 充実すべきスポーツ種目

■「ウオーキング、散歩」第1位。次いで「野球」及び「サッカー」の順。

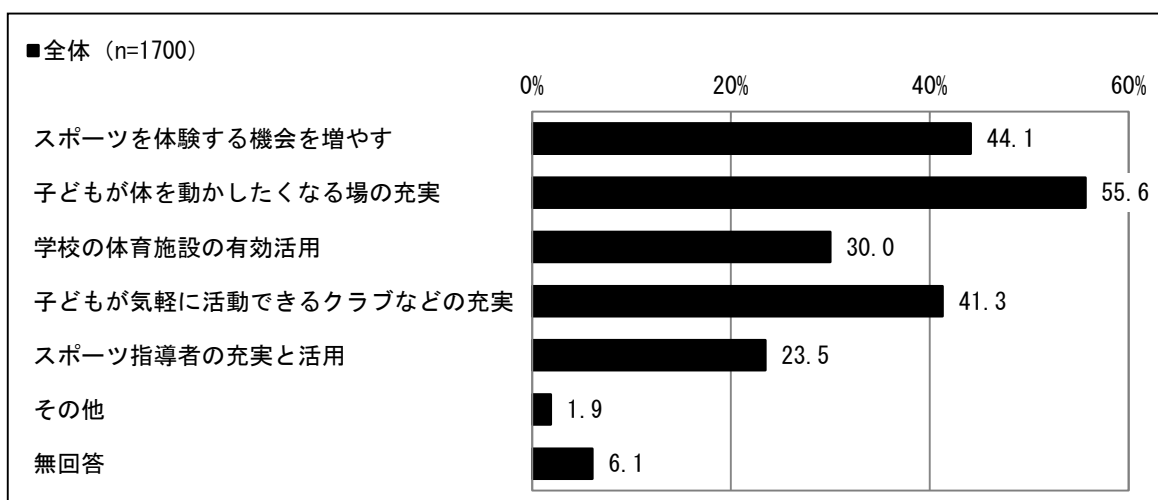
充実すべきスポーツ種目については、「ウオーキング、散歩」(27.7%)が最も多く、次いで「野球」及び「サッカー」(同率21.8%)、「サイクリング」(15.4%)、「ラジオ体操、ながちか体操」(15.2%)、「マラソン、ジョギング」(14.6%)などの順となっている。



(18) 子どもの運動環境の充実に必要な取組

■「子どもが体を動かしたくなる場の充実」が第1位。次いで「スポーツを体験する機会を増やす」、「子どもが気軽に活動できるクラブなどの充実」などの順。

子どもの運動環境を充実させるために必要な取組については、「子どもが体を動かしたくなる場の充実」(55.6%)が第1位に挙げられ、次いで「スポーツを体験する機会を増やす」(44.1%)、「子どもが気軽に活動できるクラブなどの充実」(41.3%)、「学校の体育施設の有効活用」(30.0%)、「スポーツ指導者の充実と活用」(23.5%)などの順となっている。

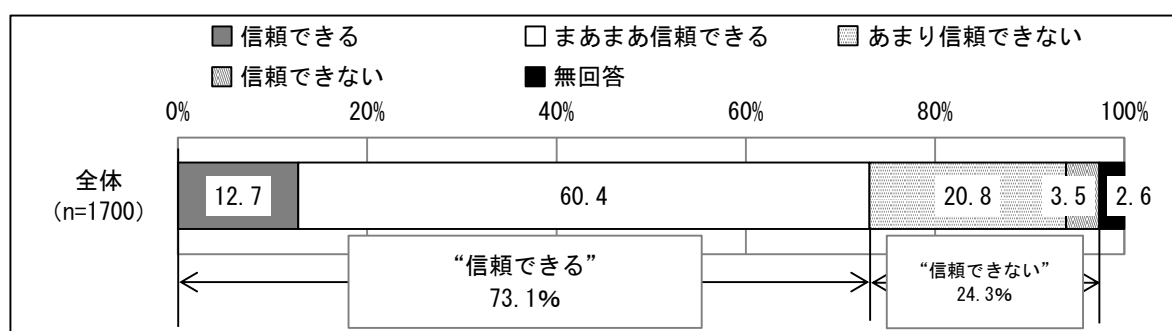


20 市政や市役所について

(1) 行政の信頼度

■“信頼できる”が73.1%、“信頼できない”が24.3%。

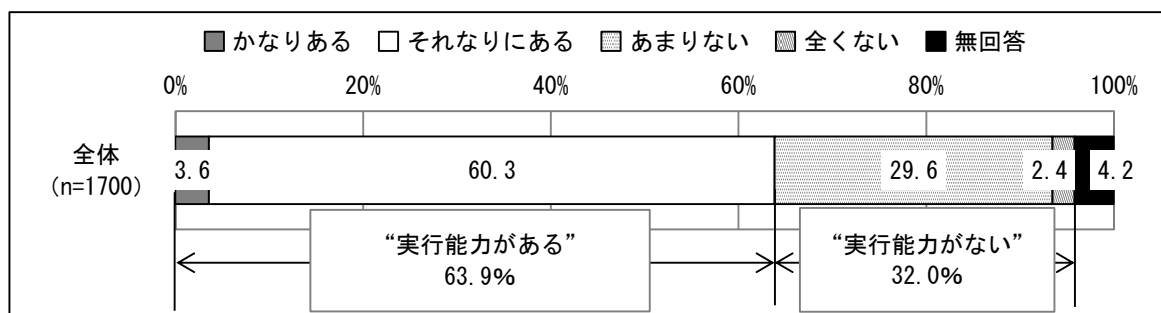
行政への信頼度については、「まあまあ信頼できる」が60.4%で最も多く、これに「信頼できる」(12.7%)を合わせた“信頼できる”が73.1%と7割を超える。一方、“信頼できない”（「あまり信頼できない」(20.8%)及び「信頼できない」(3.5%)の合計）は24.3%となっている。



(2) 各施策の実行能力

■ “実行能力がある” が 63.9%、“実行能力がない” が 32.0%。

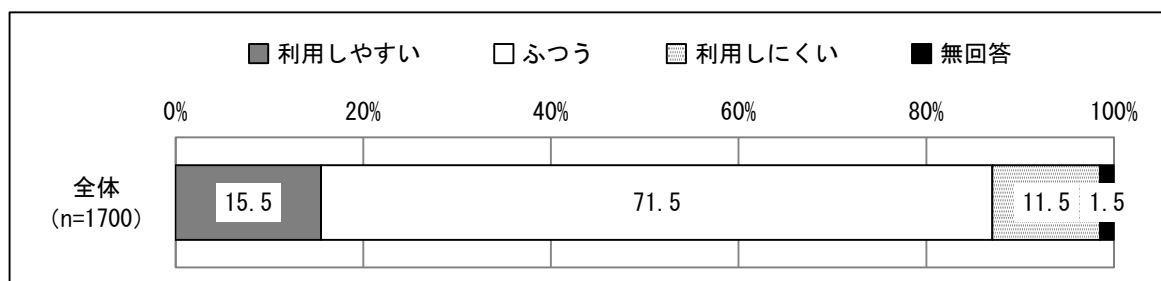
各施策の実行能力については、「それなりにある」が 60.3%で最も多く、これに「かなりある」(3.6%)を合わせた“実行能力がある”が 63.9%と6割を超える。一方“実行能力がない”（「あまりない」(29.6%)及び「全くない」(2.4%)の合計）は 32.0%となっている。



(3) 市役所の利用しやすさ

■ 「ふつう」が 71.5%、「利用しやすい」が 15.5%、「利用しにくい」が 11.5%。

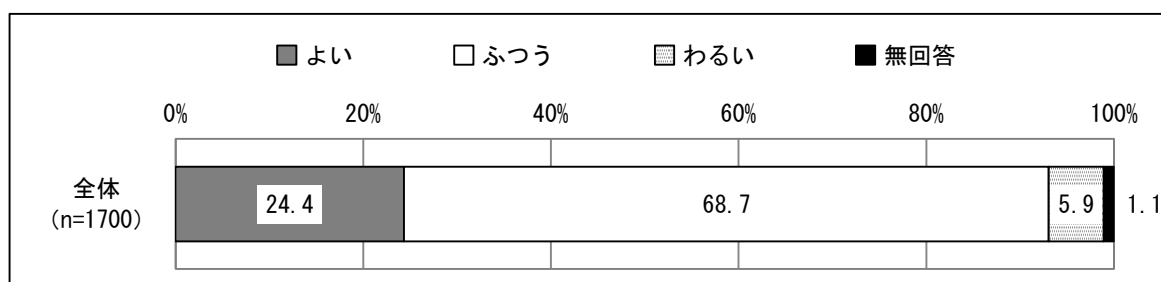
市役所の利用しやすさは、「ふつう」が 71.5%と7割以上を占めている。「利用しやすい」は 15.5%、「利用しにくい」は 11.5%となっている。



(4) 窓口の対応

■ 「ふつう」が 68.7%、「よい」が 24.4%、「わるい」が 5.9%。

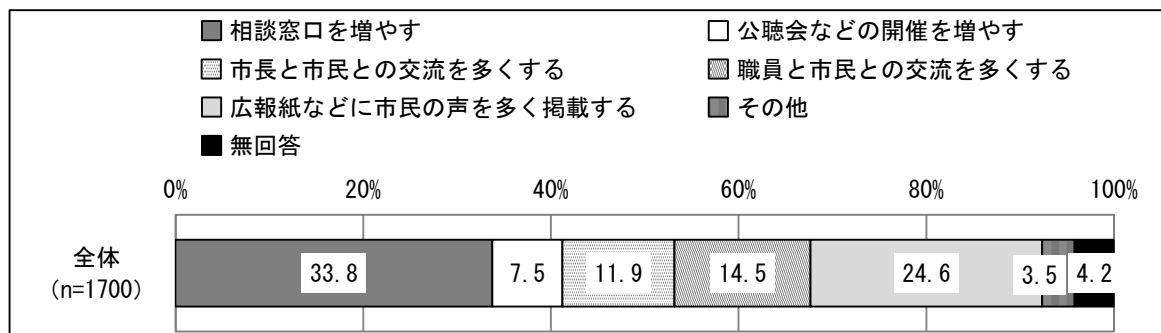
窓口の対応については、「ふつう」が 68.7%と7割弱を占め、「よい」が 24.4%、「わるい」が 5.9%となっている。



（５）市民の声を反映しやすくするために必要なこと

■「相談窓口を増やす」が最も多く、次いで「広報紙などに市民の声を多く掲載する」が続く。

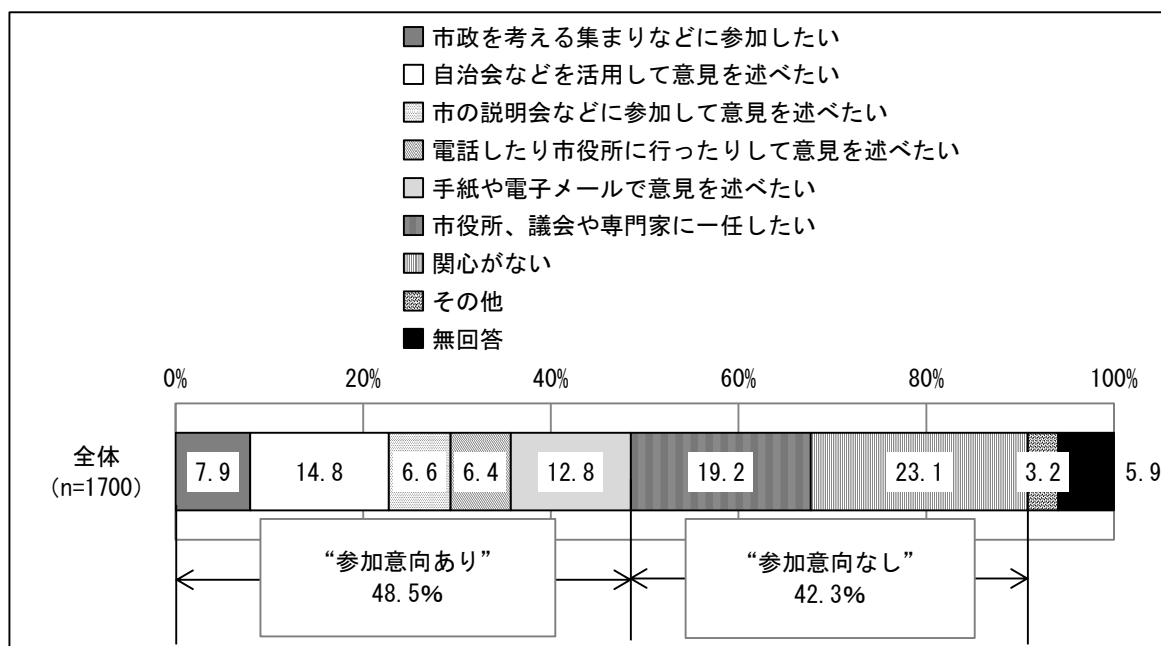
市民の声を反映しやすくするために必要なことは、「相談窓口を増やす」が 33.8%と最も多く、次いで「広報紙などに市民の声を多く掲載する」が 24.6%、「職員と市民との交流を多くする」が 14.5%、「市長と市民との交流を多くする」が 11.9%などの順となっている。



（６）市政への参加

■市政への“参加意向あり”が 48.5%、“参加意向なし”は 42.3%。

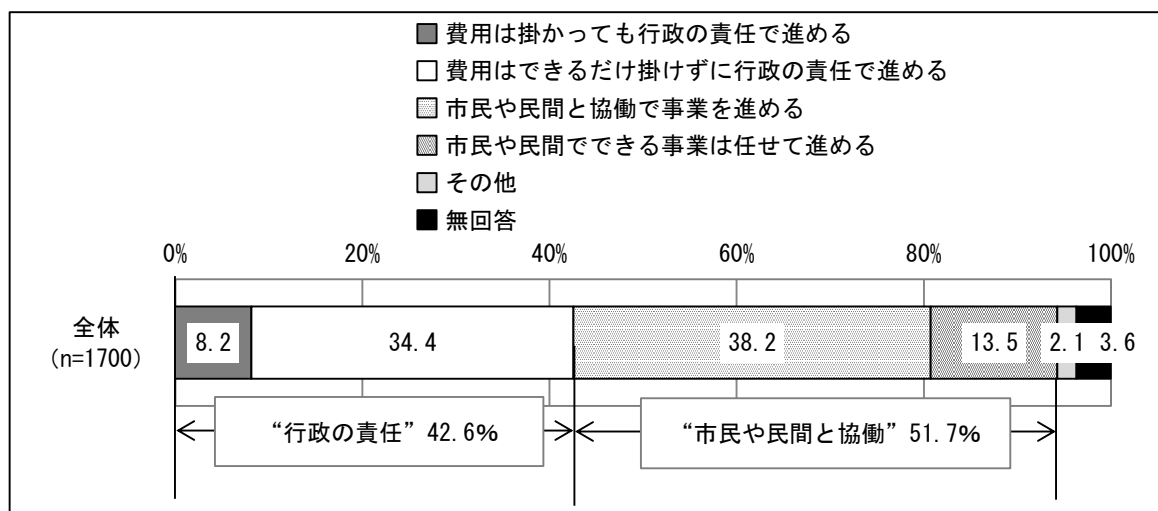
市政への参加について、「自治会などを活用して意見を述べたい」(14.8%)、「手紙や電子メールで意見を述べたい」(12.8%)、「市政を考える集まりなどに参加したい」(7.9%)、「市の説明会や懇談会に参加して意見を述べたい」(6.6%)、「電話したり市役所に行ったりして意見を述べたい」(6.4%) など何らかの形で参加や意見を述べたいと考える“参加意向あり”は 48.5%となっている。一方、「関心がない」(23.1%)と「市役所、議会や専門家に一任したい」(19.2%)を合わせた“参加意向なし”は 42.3%となっている。



(7) 今後の行政運営について望ましいと思う方向

■ “市民や民間と協働” が 51.7%、“行政の責任” が 42.6%。

今後の行政運営について望ましいと思う方向については、「市民や民間と協働で事業を進める」が 38.2%で最も多く、これに「市民や民間でできる事業は任せて進める」(13.5%)を合わせた“市民や民間と協働”が 51.7%となっている。一方、“行政の責任”（「費用は掛かっても行政の責任で進める」(8.2%)及び「費用はできるだけ掛けずに行政の責任で進める」(34.4%)の合計）は 42.6%であった。



行田市民意識調査 報告書
(概要版)

発行日／平成26年12月

発行／行田市 総合政策部 広報広聴課

〒361-8601 埼玉県行田市本丸2-5

TEL.048-556-1111

印刷／株式会社 ギョウせい

